

相手の出方によつては、それが何人であらうとも、たちまち取つ組んで池の中へ叩き込まう。さういふ亂暴さが、元氣が、若さが、私の身うちには、張ち切れるほど、いつも充溢してゐた。あんな亂暴は、冷汗だが、若さと元氣とは、もう一度、せひ取り戻したい。

——病氣で臥てゐると、しきりに、さうしたことをおもふ。

## 五、結 語

私が衆議院に出たのは、右に述べた松方内閣の明治二十五年を最初として前後七回におよんでゐる。すなはち明治三十一年(第三次伊藤内閣)、明治四十一年(第二次桂内閣)、大正四年(大隈内閣)、同六年(寺内内閣)、同十三年(清浦内閣)、昭和三年(田中内閣)であつて、後ち濱口内閣の時、貴族院に入つて現在におよんだ。その間、私の政治生活においては、ほゞ次の三つの段階があるやうにおもふ。

第一は、私が明治三十年、日清戦後の好景氣の反動によつて、大阪市を中心とする關西の

事業界が、業務不振の極、殆ど破綻に瀕した際、井上公を動かしてその救済に當つた時から、次いで政府に説いて鐵道抵當法を公布(明治三十八年三月)せしめ、外資輸入の途を開いた時である。この時代は、實に本邦における國民經濟の完成期に相當してゐるのであつて、従つて私の取つた政策は、之が完成を速かならしめんが爲め、政府をして極めて積極的進取的なる商工振興策を行はしむるとともに、他面、私は輿論の攻撃に屈せず、社會の不評を甘んじて、第三次伊藤内閣より第二次山縣内閣にかけ、地租増徴案の提出および通過の爲めに力を盡くした。これが、國家の財源を確定してその財政に彈力あらしめ、當年の國際競争の波動に備ふる唯一の途であり、且つまた、國民經濟發展の基礎を築くところの、根本方策の働きを作すものであるのは、謂ふまでもない。

第二は、右の第一段階は、所期の如く、見事に、我が國富充實國威宣揚の階梯となることが出来た。日露戦役および戦後における國家の發展が、明らかに之を證した。さうして、後ち、大正三年(一九一四年)に入り、世界未曾有の大戦亂を迎へ、いよゝゝ茲に、多年蓄積し得たる産業的能力を發揮し、資本主義經濟の主潮に乗つて、世界各國を對手に、海外の各市場に進出した。この時代が、取りもなほさず、第二段階に相當する。當時、私の主張は、此の資本主



義經濟組織の長處を、極力取り入れるとともに、出來得る限り、その短處を矯め、本邦産業の能率を引き上げて、國富を増進することにあつた。従つて、資本主義經濟組織の發達に伴ひ、その内部において、之に附隨して、必然發生するところの勞働問題に對しては、私は、單に微溫的なる勞資協調説に満足する能はずして、勞資兩者の合同協力による、工場經營の方法を實行すると同時に、勞資間に、公正なる利益分配制度を立てねばならぬと力説した。その主張は、拙著『經濟組織の改革』および『桃僊獅子吼集』等の隨所に現はされてゐるのである。

第三は、輓近の提唱に係る、統制經濟の具體化である。これは、資本主義的生產組織の母體たる自由經濟が、その發展の窮極において、當然示すべき轉向形態であると謂はねばならない。もちろん、統制經濟の概念においては、資本主義的のものと、社會主義的のものと、二つに分けらるゝが、現在我國において提唱さるゝ統制經濟は、兩者を折衷せる、國家社會主義的態様を有するものであつて、國家の必要の前に、あらゆる生産および分配を、規整し統制せよといふのである。此の意味において、それは、直ちに、ブロック經濟の中核をなすものであることは言ふを俟たぬ。私の國策上としての三段階は、いまこゝに到達して

をるのである。

以上の三段階を経た私の國策的見地は、現在および將來に互り、ブロック經濟の展開に、如何に働きかける歟。同時に、それが、如何に、第三、第四の國策を生み出すに至る歟は、私が私自身に懸けた大いなる興味であり、且つ期待でもあつた。私の濱口内閣當時における生命保險國營案の如き、すくなくとも、私の主張が、往年の自由經濟的思想から、一步輓近の統制經濟的思想に踏み出してきた證據であるが、この際、齋藤内閣の要請によつて、私が、交通調査會に列するに至つたのは、極めて有意味のことであるとともに、私としては、また之に、出來うるかぎり、意味づけねばならぬとおもつた。云ひ換ふれば、之を機會に、私は、更らに、この第三段階に立つて、これに關する、國策遂行の爲め、捲土重來を期してゐるのである。病氣では致方はないが、希くば、靜養效を奏して、早く立ちあがりたい。私自身の爲めに。否、私の念頭を寸時も離るゝことなき、これら國策遂行の爲めに。



私は、病床に身を横たへて、つくづくおもふ。

政黨の廢頹、財閥の放縱、五・一五事件の勃發、直接行動の跳躍、憲政の破壊、ファッショの横行、官僚政治の擡頭、これが、當今の世相であつて、或る論者は、總て資本主義經濟組織の爛熟に伴ふ必然の現象だと見てゐるやうだ。

しかし、私は、日本が、之等の重壓をうけて、このまゝ、衰亡の谷底に顛落するものとは、思ひえない。同時に、國民の政治的意思の表現たる政黨が、いま如何に、四苦八苦の苦しみをなめつゝあるにせよ、このまゝ、死床に滑り込むものとは、斷じておもひえない。日本が亡びざる以上は、有らゆる制度は、試煉をうくる度の強きだけそれだけ、若々しく更生しよう。國民の生命が盡きざる以上は、有らゆる壓迫に堪へて、雄々しく立ち上つて來よう。とおもふ。従つて、政黨も、早晩必ず、本來の姿を取り戻すだらう。ただ、この際、政治家は、教育家は、思想家は、指導者は、何を措きても、國民の魂に潑刺たる生氣を吹き込むように、心掛けねばならぬ。すくなくとも、國民の日新更始の勢ひを萎縮せしめるが如き政策行動を謳歌し、示唆したりすることは、斷じて許されない。

一部の階級が、權力を以て、他の階級を壓迫するといふことは、國家の政治を、半身不隨の状態に置くものだ。いくら手足が丈夫であつても、國家の内臓を弱らしてしまへば、列強と角逐することは出来ない。一部の財閥が、利潤の獨占を能事としては、如何に國家の産業が發達しても、國民は營養不良に陥らざるを得ない。それ故に、私は、國家を衰亡せしめぬ爲めに、有らゆる階級に呼びかけて、國家の魂を、國民の生命を、日清戦争、日露戦争當時の、あの若さを取り戻させねばならぬ。生命の若くしさこそは、一切の國策中の根本であり、核心であるからだ。

いま病床にあつて、眼を閉れば、東海の天に翩翩として翻る大日章旗のはた、めきが聞える。永遠に若く、永遠に輝く、萬世一系の御光りが仰がれる。此の大光明に浴し、若々しき大生命に鼓舞せられて、國民大衆は、いまや、更生、日本の建設に全力を集中してゐるのだ。



世界の有らゆる港には、我商船が、舷を摩して輻輳してゐる。海外の需要大群を目かけ、高き關稅の障壁を乗り越えて、我商品は洪水の如く氾濫しつゝある。世界の軍閥の壓迫を凌ぎ、帝國主義者の排斥を物の數ともせず、我國民は、到るところに、「正義」と「平和」の福音を齎らす。大地の底より噴出する泉をふせぎとめども、日本の生命が、世界の人類を潤はす新文化の漲溢は、神といへども、絶對に禦ぐことは出来ない。

私たちの先覺者は、人間の運命の上り阪が、やがて下り阪であると同時に、下り阪の窮極が、直ちに上り阪に向ふ、第一歩であることを示した。若き生命よ。前進せよ。なんぢは、既に老いたる私たちの頭上を乗り越えて、そこに更生日本の全貌を、全心全力を以て、展開させなければならぬ。

### 大正昭和政治史の一断面 畢

### 附 錄 回想錄・續回想錄・資料補遺



第一、明治十五年十月立憲帝政黨結成ニ際シ福地  
源一郎氏執筆ノ趣意書(回想録第百十四頁參照)

憤起セヨ諸君。今日ハ是レ一隅ニ偏安スルノ時ニ非ザル也。某等窃ニ今日ノ時勢ヲ視ルニ、世論奇ヲ競ヒ人心異ヲ喜ビ、本ヲ棄テ、末ニ趨リ理ニ偏シテ實ヲ顧ミズ。詭言激説、日ニ益々其狂暴ヲ放マ、ニシ、滔々乎殆ンド其底止スル所ヲ知ラザラントス。今ニシテ早ク諸君ノ力ヲ以テ之ヲ匡救セズバ、天日地ニ墜テ逆浪山ヲ覆シ復タ挽回スル事能ハザルノ禍ヲ見ハ蓋シ遠ニ非ザルベシ。此時ニ當リ諸君ハ我 皇室ヲ何地ニ安ジ奉ラント欲スル乎。某等思テ茲ニ至ル毎ニ、慷慨悲憤、聲ヲ飲テ痛哭セズバアラザル也。恭ク惟レハ 聖天子允文允武惟毅惟哲、夙ニ維新ノ偉業ヲ建テ、親ラ大政ヲ總攬シ給ヒテヨリ正ニ十有五年。凡百ノ政治制度ノ改進セラル、モノ細大ト無ク、内ニシテハ國民ノ康福安寧ヲ進捗シ外ニシテハ 皇國ノ光榮威權ヲ擴張スルノ績アラザルハ莫シ。

聖天子ノ恒ニ民心ニ則リ政ヲ施クノ 勲慮ニ篤キ、上ハ元老院ヲ興シテ立法ノ議ニ與カラシメ下ハ府縣會區町村會ヲ起シテ地方政治ニ參スルノ議權ヲ臣民ニ與ヘ給ヒ、遂ニ明治二十三年ヲ期シテ議員ヲ召集シ國會ヲ開



カス可シトハ詔ハセ給ヒヌ。史書アリテヨリ以來四千有餘載、海ノ内外ヲ問ハズ世ノ今古ヲ論ゼズ、坤輿各國會テ是ノ如キ昌運ノ盛時ニ際シ是ノ如キ聖哲ノ明主ニ遭ヒタル事アリヤ。我國ノ臣民生テ此千載一遇ノ昭代ニ會ス。臣民ノ康福實ニ焉ヨリ大ナルハ莫シ。苟モ臣民ノ大義名分ヲ識ル者ハ宜ク 聖恩ニ感激シ盡忠報國ニ是レ違ナカルベキニ、獨リ怪シム氣運ノ赴ク所ハ未ダ必ズシモ然ラザルヲ。抑モ是レ如何ゾヤ。某等熱々氣運ノ赴ク所ヲ察スルニ近時民權自由ノ說頻ニ世ニ行ハレテヨリ、時論ハ俄然共和民主ノ極端ニ走り相爭テ奇異ヲ事トシ、各地ニ政黨ヲ募リ各所ニ政論ヲ喚ビ聲援相應シ氣脈相通ジ、將ニ全國ヲ舉ゲテ政治理論ノ場タラシメントスルノ勢ヲ現ハシ、其所謂黨派ヲ見レバ或ハ世ニ容レラザルノ不平ヲ以テ相結ビ、或ハ名利ヲ博スルノ欲ヲ以テ相投ジ、或ハ人ニ同ジ或ハ勢ニ媚ビ又或ハ主義モ無ク思想モ無クシテ附和スル者アリ。其所謂政論ヲ聽ケバ或ハ歐西哲學ノ單純理論ニ心酔シテ更ニ實際ノ得失利害ヲ問ハズ。或ハ社會民約ノ邪說ニ沈溺シテ全ク眞正ノ政理治術ヲ厭ヒ、或ハ自由ヲ宗トシ或ハ改進黨ヲ主トシ、却テ其自由改進黨ハ秩序ト併行スルニ非ザレバ不可ナルノ理ヲ知ラズ。又或ハ言ヲ尊王ニ托シテ陰ニ民主ヲ講ジ、陽ニ國安ヲ重ジテ實ハ破壞ヲ悅ブ者アルガ如シ其朱ヲ奪ヒ雅樂ヲ亂ルモノ日一日ヨリ多シ。是ヲシテ其放マ、ニスル所ニ任セバ、世道爲ニ衰微シ人心爲ニ蠱惑シ、德義爲ニ陵夷シ忠孝爲ニ湮滅シ天下復タ收拾ス可カラザルニ至ラン。是レ某等ノ尤憂ル所ニシテ諸君ハ蓋シ已ニ某等ニ先テ之ヲ憂ルヲ信ズルナリ。夫レ已ニ之ヲ憂フ、之ヲ今日ニ匡救スルハ斷ジテ諸君ノ任ナリ。諸君ハ先進先覺ナリ、決テ其責ヲ天下ニ辭ス可カラザルナリ。抑モ治亂盛衰ノ政論政黨ニ因スル者ハ其根ヤ深ク其

果ヤ大ナリ。就中理論ニ偏シテ實際ヲ顧ミザル者ニシテ、一旦其志ヲ逞クスル時ハ其禍害ノ慘毒ハ一世ニ止マラズ、延テ數世ニ及ビ甚キハ其政體ヲ變壞シ、其朝廷ヲ廢滅シ、其國家ヲ顛覆スルモノ其例蓋シ少トセズ。今試ニ其二三ヲ舉示センニ、シーザル斃レテ羅馬合衆亡ビ帝王代迭シ、武權ヲ以テ政治ヲ擅ニセシ事三百有餘年、四分五裂シテ衰滅セシモノハ、其初メブルトス諸人ガシーザルヲ除クニ非ザレバ國民ノ自由ヲ保全ス可カラズト蠱惑セシガ故ナリ。デ・ウキツト刺サレテ荷蘭共和其紐ヲ解キ遂ニオレンジ公家ノ君主制ニ歸セシハ、デ・ウキツトノ爲ニ國民ノ自由ヲ誤ラルベシト妄想セシガ故ナリ。其自由ヲ貴重スルノ理論ニ激セラレテ忍ブ可カラザルヲ忍ビ、以テ大逆ヲ行ヒタルニ外ナラザレバ、其志ヤ悞レム可シト雖モ爲ニ反對ノ結果ヲ招キ其國民ノ自由權利康福安寧ヲ舉テ盡ク地ニ塗ル、ニ至ラシメタルハ、徒ニ理論ニ偏シテ實際ノ得失利害ヲ顧ザルノ罪ニ非ズヤ。ブルボン氏ノ朝廷亡ビテ暴戾ノ民政佛蘭西ニ行ハレ、其禍害ヲ延テ歐西全土ニ及ボシ、全土ノ黎民其生ヲ聊セザル三十有餘年。大亂戡定ノ後ト雖モ君主制共和制相互ニ内亂ニ交迭シテ、今日ニ至ルモ猶未ダ全ク其禍機ヲ消スル事能ハザルハ、其初メウオルテル、ルーソー諸人ノ理論ヲ以テ先ヅ人心ヲ挑撥シ、其理論ハ直ニ實施シ得ベシト妄信スルノ輩アリテ之ニ次ギ、愈々極端ニ走りテ愈々激烈ニ陥リ復タ世道人心ヲ顧慮スルニ違アラザルガ故ニアラズヤ。現時社會黨ノ日耳曼ニ於ケル虛無黨ノ露西亞ニ於ケル共產黨ノ佛蘭西ニ於ケル萬國黨ノ瑞西ニ於ケル無衫黨ノ是班牙ニ於ケル借地黨ノ愛蘭土ニ於ケルヲ見ヨ、何ゾ其狂暴悖逆ナル。然リ而シテ其因テ來ル所ヲ察スレバ皆盡ク單純理論ニ其源ヲ發スル者ナルガ故ニ、其高尙幽妙ナルニ心酔シテ其實施ヲ熱望シ、







懼レズ。以テ民權ヲ擴張スルノ精神ナリト云フニ至ル。貧窶ノ□□タル傭夫車夫ノ如キモノニ誤惑セラル、愛知ノ愛國交親會ノ如キ、高知ノ力役自由黨ノ如キモノアリ。其言ヲ聽ケバ、則チ國會早ク開設スレバ今日ノ貧苦ヲ免ル、ヲ得ベシト妄信スルニ外ナラザル也。其弊ヤ益々滋蔓シテ益々危激ニ趨リ、遂ニ長崎ニハ社會黨ヲ設ケ大阪ニハ虛無黨ヲ現ハシ、東京ニハ革命親睦會ヲ廣告セシガ如キ、復タ天地間ニ世道大經アルヲ知ラザルニ至ル、噫天日其光ヲ失ヒ妖氛其毒ヲ流ス斯ク夫レ極レリ。諸君豈ニ 皇室ノ爲ニ 皇國ノ爲ニ之ヲ今日ニ匡救セズシテ可ナランヤ。

憤起セヨ諸君。今日ハ是レ一隅ニ偏安スルノ時ニ非ザル也。今ヤ彼ノ民權自由ヲ口實トスル者輩ノ所爲ヲ視ヨ。其純雜醇駁眞假ノ如何ニ別ナク言論ノ相似ルニ依リテ結合シ、將ニ一大團結ヲナシテ以テ其志ヲ逞クスルノ計畫ニ汲々タル正ニ蔽フ可カラザルノ跡アリ。而シテ能ク其衝ニ當リ其銳ヲ挫キ彼ヲシテ其志ヲ逞クスルヲ得ザラシムル者ハ、實ニ諸君ノ尊 王愛國ノ氣節ニ是レ存スル也。此氣節ハ諸君 聖天子ノ明詔ヲ奉戴シ序々循テ歩ヲ進ムルノ大道ニ則リ、進歩ト秩序ノ併行ヲ主義トシ、主義ノ同ジキヲ以テ大ニ結合スルニ非ザレバ以テ全國ヲ振作スルニ足ラズ。是レ諸君ノ知ル所ナリ。之ヲ知リテ行ハザルハ抑モ何ゾヤ。某等謹デ諸君ノ志ヲ察スルニ諸君ハ皆天下ノ憂ヲ今日ニ同クスルノ忠良ナリ。其言論ニ發シ行爲ニ顯ル、所大抵期セズシテ其轍ヲ同クスルヤ明ナリ。而シテ其今日ニ至ルマデ全國同志ノ間聲息未ダ會テ通ゼズ、結合未ダ會テ謀ラザル恰モ秦楚ノ思ヲ成スガ如キハ何故ニ然ル乎。某等諸君ノ爲ニ取ラザル也。各自ノ主義ニ小異アルガ故ナリト謂ハン乎、

胡爲ゾ其小異ヲ措テ大同ニ就クノ方ヲ求メザル乎、同舟相救フベキノ今日ニ當リ小異ニ區々トシテ結合ノ大勢ヲ誤ルハ其利安ニカアル。某等諸君ノ爲ニ取ラザル也。某等嚮ニ立憲帝政黨ノ東京ニ樹立スルヲ聽クニ臨ミ窃ニ思ヘラク是レ輦轂ノ下ニ在リテ此結合ノ大計ヲナス者ナリト。佇立シテ其爲ス所アラン事ヲ望ミタルニ今ニシテ其實際ヲ見レバ、纔ニ二三新聞社ノ同志相謀リテ其主義ヲ紙上ニ皇張スルニ過ギズ。其實力ニ乏シキ亦知ルベキ而已。某等諸君ノ心ヲ忖度スルニ諸君ノ同志同感ニ於ケル豈小異ニ拘泥シテ大同ヲ謀ラザルノ意アランヤ。豈一隅ニ偏安シテ大勢ヲ誤ルヲ利アリトセンヤ。然リ而シテ其未ダ今日ニ至ルマデ事ノ茲ニ及バザルハ、諸君ノ間ニ周旋スルノ辨ナキガ故タル必セリ。某等不似固ヨリ後進後輩ナリト雖モ座シテ今日ノ時勢ヲ傍觀スルニ忍ビズ。仍テ漫ニカヲ量ラズシテ此辨ノ任ニ當リ飽マデ諸君ノ爲ニ周旋ノ勞ヲ執ラント決心シ、爰ニ本年十月十二日ヲ期シテ諸君ノ爲ニ一大會議ヲ西京ニ開カント議決ス。諸君幸ニ此舉ヲ是ナリトセバ某等ノ冒瀆ヲ讓ムル事無ク、請フ諸君會衆ノ總代ヲ西京ニ發遣シテ此會議ニ臨マシメヨ。此會議ニ於テ諸君同志同感ノ肝膽ヲ吐露シテ相謀ラバ、一大結合ノ美果ヲ見ン事某等ガ固ク信ジテ疑ハザル所ナリ。此一大結合ヲ得テ以テ全國ノ氣節ヲ振作セバ假令時論ノ詭言激説ヲシテ今日ニ倍蓰スル事アラシムルモ、我金甌無缺ノ 皇國ヲ保維シ萬世不易ノ 皇室ヲ泰山ノ安ニ置クニ於テハ敢テ憂フベキ所ニ非ザル也。憤起セヨ諸君。今日ハ是レ一隅ニ偏安スルノ時ニ非ザル也。



## 第二、明治二十五年五月第五帝國議會衆議院ニテ 選舉干涉ニ關スル緊急決議案ニ對スル私ノ 反對演說(速記録)

誠ニ執拗ニモ、又候選舉干涉ノコトニ就イテ茲ニ緊急動議が出タコトデアリマス。ソレニ就キマシテ、本員ハ此場合止ムナク此緊急動議ニ反對ノ意見ヲ述べナケレバナリマセヌ。何故止ムナクト言ヘバ、元ト此ノ選舉干涉ト云フコトハ、決シテ宜シイコトデハナイ。宜シイトハ本員ハ言ハナイ。官吏ガ干涉スルト云フ、又官吏ニ準ズル即チ町村長ノ如キ者ガ干涉スルハ、素ヨリ同一ニ甚ダ宜シクナイコトト云フ考ヘテ有ツテキルノデア。既ニ此緊急動議ノ起リマス以前、本日ノ議事日程ニモ、此干涉ノコトヲ取調ベルト云フコトガゴザリマスルガ取調ベテ見タイト云フ考ヲ有ツテキルノデア。併シ茲ニ、直チニ議決シテ置クト云フナラバ、十分ニ反對ヲ述べナケレバナリマセヌ。此反對ノ意見ヲ述べマス所以ノモノハ、如何ニモ干涉シタト云フ所ノ實證ヲ確メ得ナイノデア。即チ十二日ニ上奏案ヲ議スル場合ニ於テ、諸君ガ喋々論ゼラレマシタ。或ハ證據物トシテ巡查一人ノ報告書ノ如キモノヲ、ビラ々々々サレタ方モゴザリマシタケレドモ、マダ以テ證據トスルニ足ラヌモノト思フノミナラズ、立川君ノ高知縣ノコトヲ論ズル如キハ、大キニ事實ヲ誤ルモノガアル。——ノウ

ト云フナラバ今實蹟ヲ擧ゲテ示シテ上ゲマスルノデゴザリマス。

今高知縣ノ状態ヲ述べルニ當ツテ、高知縣ノ黨派ノ状態ヲ幾分カ言ハナケレバ貫徹シナイノデア。抑モ高知縣ニ黨派ヲ起シマシタモノハ、明治六年、夫ノ板垣君外政府ニ在ル所ノ人々ガ、征韓論ノ容レラレザル所ヨリ、民間ニ下ツテ立志社ト云フモノヲ建テタノガ元デア。即チ失意ノ人ガ集ツテ以テ組織シタ立志社ト云フノガ始デアリマス。其當時ハ別ニ政治上反對ノ意見ヲ以テ組立テタモノハナカッタノデア。維新前マデ溯ツテ論ジテ見レバ、或ハ勤王攘夷黨ト云フモノガアリ、或ハ佐幕論ヲ主張シタ者モゴザリマセウ。又其維新前ノ黨派ノ有様カラ幾分カ原因トナツテ、現在ノ黨派ニ關係ヲ有ツテ居ル者ガアルノデア。處デ明治十年ニ至リマシテ夫ノ西南ノ役ガ起ツタ。此場合ニ於キマシテハ高知縣ノ今日ノ國民黨モ、今日ノ自由派モ、殆ンド同一ノ考ヲ有ツテ居ツテ、元々今日ノ國民黨ナルモノハ、維新前ノ尊王攘夷黨デア。ソレデ維新ノ當時ニアツテハ尊王ハ出來タケレドモ、攘夷ハ出來ナイト云フ、明治ノ初年マデモ其感想ヲ有ツテ居ツタ。即チ一方ノ人ハ政府ニ出ル。一方ノ今日ノ國民黨ノ明治初年ノ境遇ハ、政府ノ仕方ニハ素ヨリ反對ノ意見ヲ有ツテ居ツタ者デアリマス。ソレ故ニ或ハ今日吏黨ト呼バレタ人モゴザリマシタガ、却ツテ本心ヲ問ヘバ政府ノ處置ニ服セナイコトハ、此ノ國民黨ニ從前ヨリ有ツタノデア。明治十年ニ至ツテ夫ノ護郷兵ト云フモノヲ團結シテ、而シテ後ニ打出ソウト云フ計畫ガアツタノデア。然ルニ此ノ重立ツ者ハ立志社ニ居ラレタ方々ノ先輩ガ、重モニ牛耳ヲ取ツテ居タモノデア。其ノ當時ノ境遇ヲ言ヘバ、僅ニ馬關ガ抜ケタラ行クトカ、明日ハ出ルトカ、明後



日ハ出ルトカ、一日延ベニ一體ノ人間ヲ抑ヘテ居ツタモノデアアル。處ガ時期因循ノタメ、悉ク先ダツ者ハ捕縛セラレ、即チ國民黨ノ重ダツ者、自由派ノ重立ツ者ハ皆取押ヘラレ、兵器彈藥ハ悉ク取上ゲラル、コトニ至ツタ(ソシナナ舊歴史ハ要リマセヌ、ト呼ブモノアリ)。併シナガラ黨派ノ状態ヲ云ハヌト、勢ヒ私ノ議論ハ貫徹シナイト云フコトヲ、御斷ハリシテ置キマシタ。靜ニナサイ。私ハ許可ヲ得テ論ジテキルノデアアル。——ソコデ忽チ國民黨ナル者ハ彼等ト到底事ヲ爲スニ足ラズト云ヒ、相別レタ者ガ、即チ幡多郡ノ明道會ガ出來、高岡ニ進終社ガ出來。香美郡ニ嶺南社ガ出來タノハ、素ト今日ノ國民黨ノ原素デアアル。即チ十年ニ至ツテ自由派ノ連中ト共ニ爲スニ足ラヌト云フヨリ出來タノガ……。ソウ云フ境界デアツタノデアアル。國民黨ハ學校ヲ建テ、子弟ヲ養成シ、一方ハソレ丈ノ擴張ヲ圖リ、十四年ニ至リマシテ、自由派ノ一局議院ヲ主張シ、憲法ハ國約ニナラネバナラヌト云フコトヲ公言スルニ至ツタ。此場合ニ於キマシテ東西ニ斯克私立學校ヲ建テ、或ハ各々相集ツテ高陽會ト云フモノヲ組織シテ、憲法ハ欽定憲法デナケレバ、議院ハ即チ二局ヲ要ス、即チ兩方要スルト云ヒ雙方酷ク論撃シテ黨派ノ競争軋轢ヲ來タシタノハ、即チ十三年頃ガ甚シク、業ニ己ニヤツテ居ツタノデ、決シテ今日始マツタノデナイ。十三年ノ時分ニ著シク證據ヲ著ハシタノデアアル。

然シテ中ハ略シマスガ、此ノ前期ノ議會、即チ初期ノ議員選舉ノ當時ニ於キマシテ、彼ノ相割レタル者ガ争ツタ事實ハ嚮ニ武市安哉君ガ陳ベマシタ通りデアアル。然ルニ武市安哉君ガ此ノ説ニ依レバ、第二區ナル者ハ前期ニ於テ多數ノ自由派デアツタモノデアアル。四百餘票違ツタモノデアアルカラ、今回ハ争フベカラザルモノデア

ルト云フ證據立テヲセラレタ。處ガ實際ニ於キマシテハ、幡多郡ハ殆ド僅ニ宿毛ノ近傍其ノ他ニボツ々々自由派ガアルノミ。高岡郡ニ於テハ、即チ須崎ヨリ新庄川等ノ自由派ハボツ々々ゴザイマセウガ、概シテナイト云フトモ決シテ誣言デハナイ。唯當時水害ノタメニ有權者ノ數ガ減リマシタコトガゴザリマス。即チ第一期ニ於キマシテハ、國民黨ガ不覺ヲ取ツタノハ全ク之ガ原因ニアル。素々自由派ガ争フベキ土地デハナイノデアアル。且ツ頻リニ選舉干渉ガ惡イト申サレマスガ、其當時ハ高知縣ノ組織ハ何方ニ傾イテ居ルカト言ヘバ、即チ自由派ヲ利用スル方ガ宜シイト云フ、縣廳ガ政策ヲ執ツテ居タトキデアアル。現ニ斯克申ス私ハ、吾川郡ノ伊野ニテ演説ヲ致シタトキニ、巡查ノ一人マデ自由派ニナツテ、頻リニ騷イデ居ツタ人ガアリマシタガ、其當時ハ自由派ハ寔ニ宜カツタノデゴザリマセウ。今ハ惡イト云フガ……。拙者ハ干渉ハ宜クナイト先ニ申シテ居リマス。大内ト云フ所ノ演説會ニ於テ妨害セラレタコトガアル。其妨害ヲ與ヘラレタコト、有權者水害ノタメ減ツタノガ、即チ不覺ヲ取ツタニ相違ナイ。其後ニ於テ此前回ノ不覺ヲ挽回センコトニ勉メタノハ、ナカ々々容易ナ事デハナイノデアアル。成程、今日ハ自由派ガ不覺ヲ取ツタノハ、嘗テ油斷シタ文ノ結果デアアルニ相違ナイ。斯克申セバ前年來、黨派ノ相争フ所ノ状態ハ、略々御分リニナツタラウト思ヒマス。嚮ニ武市安哉君ガ一期ニ負ケタカラ今回ハ争フベカラズト云フ所ノ論モ負ケタカラ、大ニ用意ヲシタリト云フハ、自然ノ必要デゴザリマセウ。安哉君ノ説ハ終始動カザルモノトハ申サレマイト思ヒマス。

今回ノ競争ニ至リマシテハ、一月十七日ヨリ始ツタコトデゴザリマス。頻リニ干渉ト申サレマスガ、一月十



七日以前ニ於キマシテ、干涉ノ事實ガアリシヤ否ヤ。拙者ハ他ニ出テ居リマスカラ存ジマセヌ。其後ニ至リマシテハ、干涉ハ、事實ハ決シテ本員ハ認メマセヌ。何故認メナイカト云フト、即チ國民黨ノ在來ノ本心ハ、官吏ノナスコトヲ喜バナイモノデアル。干涉ナド喜ビマセヌ。到底容レルモノデナイ(今日ハ如何ト呼ブ者アリ)。此黨派ノ争フ狀況ハ孰レガ宜シイカト申シマスレバ、決シテ國民黨ノ處置ガ悉ク宜シイトハ申シマセヌ。去リトテ、自由派ノ先生達ノヤツタコトガ、悉ク正當トハ言ハレナイ。何故カト申シマスレバ、一月二十九日ニ佐川村ト云フ所デ、即チ立川雲平君ノ述ベラレタ所デアリマス。是レハ殆ド戦争ニ類スルガ如キ争ヒガアツタニ違ヒナイ。其場合ハドウデアアルカト言ヘバ、國民黨ノ者ハ、七十四名通行ノ場合ヲ斗賀野ト云フ土地、斯フ兩方ニ山ガゴザイマシテ、其間ニ道ノアル所デゴザリマス。兩方ノ山ニ於キマシテ、鐵砲ヲ撃チ掛ケタノデアアル。即チ國民黨ノ通行ニ向ツテ、鐵砲ヲ撃チ掛ケタノハ、自由派ガ始メカラ撃チ掛ケタノデ、國民黨カラ鐵砲ヲ撃ツタノデナイ。ソレヲ聞キツケテ高知江ノ口ノ警察署、伊野ノ警察署、其他佐川分署、須崎警察署等ヨリ、巡查ガ夥シク出掛ケテ來テ、遂ニ宵ヨリ始メテ、夜明ノ日ノ出ノ場合ニ於キマシテ兩方激戦ヲシテ、一ハ鐵砲ヲ以ツテシ、一ハ竹槍刀劍ノ類ヲ以テ戦ツタニ違ヒナイ。其兩方ヲ警察官ガ解散ヲ命ゼラレタカラ、兩方追拂ツタノデアアル。追拂ツテ山ノ中デ藪ノ小サイ木ノ中デアアルカラ、サーベルヲ外ヅシテ擔イデ、サウシテ兩方ノ山ノ側カラ逐ツ驅ケテ……逃ゲタト云フコトデス。其兩方ガ逐ハレテ、國民黨モ自由派モ山カラ落合ツタ所デ、即チ山崎某ガ殺サレタ。楠目某モ傷ヲ負フタ。國民黨一人松田某モ傷ツイタ。ソレカラシテ斗賀野ニ於テ

ノ兩方ノ争ハ解散シテ、一方ハ須崎ニ行キ一方ハ高知ニ引上ゲマシタ。而シテ斗賀野ニ來テ居ツタ者ハ誰デアアルカト云ヘバ、其郡ノ選舉區民デアアルカト云フトサウデナクシテ、高知ヨリ即チ第一區ヨリ押掛ケテ來テ居ルノデアアル。ソレヲ指揮スル者ハ誰デアアルカト云フト、決シテ壯士無賴漢トハ認メマセヌ。現ニ縣會議員モ居リマス。其人ノ名前ハ知ツテ居ルガ、餘リニ人身攻撃ニ涉ルハ、私ノ本意ト致シマセヌカラ、名前ハ略シマスガ、縣會議員代人等皆有カノ人デアアルノデアアル。其人數ヲ問ヘバ皆鐘ヲ鳴ラシ、螺ノ貝ヲ吹イテ集メタモノデアアルカラ、夥シイ人數デ、村民モ多ク集ツテ居ル。高知ヨリ押掛ケタ者ハ二百餘名モアル。是レハ懸値ガアルト見タ所ガ夥シイモノデアアル。ソレカラ昨日立川君ノ御説ニ、伊野ニ於テ二人ヲ押ヘテ居ツテ、ソレヲ取返サウト名ヲ附ケテ、大イニブンナグツタ。ソレヲ警察官ガ指揮シタト言ハレタガ、果シテ指揮シタルヤ否ヤハ、立川君ハ遠眼鏡ヲ以テ見タカハ知ラヌガ、其時ハ斯ク申ス片岡直温ハ、同地ニ於テ政談演説ヲナシテキタノデアアル。サウシテ自由派ノ宿トスル所ノ中田ト、國民黨ノ宿トスル所ノ和田屋ト相並ンデ居ル、ソコデ自由派ノ先生達ハ、成程浮浪ノ人ヲ集メテ居ツタニ違ヒナイ。ソレヲ指揮スルニハ縣會ノ議員中デモ、十分ナル役員ヲセラレテ居ル人ガ集ツテ居ツタニ違ヒナイ。又國民黨ト云フ者ガソレナラ見テ居タカト云フニ、均シク壯士ヲ連レテ居ツタニ違ヒナイ。壯士ヲ連レナケレバ演説場ニ進ムコトハ出來ナイノデアアル。即チ私ガ出ル所ノ方ヲ保護シテ居ル所ノ壯士ガ一番先ニ行ツタ。處ガ、二人ヲ捕ヘテ中田ト云フ宿デ大ニ打擲ヲ加ヘタ。是ガ抑々喧嘩ノ始リデアアル。即チ國民黨ノ壯士ハ、ソレヲ取返シテ來ナケレバナラヌト云フテ、踏込マウトスルト、戸ヲ締



メテ這入ラセヌカラ、ソレ故各々刀劍棍棒ヲ以テ居ル者ハ戸ヲナグリ、遂ニ打破ツテ闖入シタ。雙方大ニ毆キ合フタニ違ヒナイ。私ハ其毆キ合ツテ居ル當時ハ、現ニ演説會場デ演説ヲシテ居ツタガ、監臨シテ居ツタ警部巡查ガ皆行クカラ怪ンデ後デ尋ネタ所ガ警部巡查ハ其方ヲ取鎮メルタメニ行ツタト云フコトデアアル。其喧嘩ノ結果ハ何が悪イカ知ラヌガ、喧嘩ノ起リハ自由派デ國民黨ノ演説ヲ妨ゲントシテ、連レテ來テ居ル壯士ガ、國民黨ノ壯士ヲ打擲シ始メタノガ起リデアツタ。雙方大ニ戦ツタ。其有様ハ氣ノ毒千萬デアツタニ違ヒナイ。兩戸ハ悉ク破レ、悉クノ膳部腕部ハ悉ク打破ツタサウダ。二階モ下モ打暴ラシ、或ハランブヲ打消シテ逃ゲルモアレバ、毆キ合フモアツタニ違ヒナイ。コチヲノ者ガ打カ、ツタト云フコトガアルケレドモ、私ガ判斷スレバ此喧嘩ヲ起シタ者ガ、惡イト云ハズシテドウシマセウ。其時分ニ國民黨ノ携ヘタ物ハ、棒、割木等デ、自由派ノ携ヘタ物ハ、鐵ノ棒、孰レデモ携ヘルハ甚ダ善クナイガ、其當時ノ狀況何モ持タヌデハ、トテモ歩ケナイノデアアル。

一一此ノ如キコトヲ擧ゲマスレバ、餘程多ウゴザイマスガ、尙ホ一昨日ノ立川雲平君ノ説ニ附イテ、モウ一應、事實ノ違フコトヲ云ハナケレバナラヌ。下田港へ自由派ノ者ガ船ニ乗ツテ往ツタ時分ニ、巡查ガ通行ヲ拒ンダ、上陸ヲ拒ンダト云フコト是レガ一ツ。其當時咄嗟ノ間ニ聽イタ所ガ云々。其咄嗟ノ時ノコトヲ十分ニ信ズルニ足ルト言ハレタ。始メ高知ヨリ船ヲ借りテ自由派ノ人、即チ伊東物部君ガ、立川雲平君ノ言ハレタ通り指揮シテ、壯士ヲ連レテ往ツタニ違ヒナイ。然ルニ始メ下田港ニ行クノ手前ニ上陸スル所ガアル。ソレカラ上

陸セントシタラ、陸ニ居ル者ハ皆抜刀ヲ以テ、鐵砲ヲ携ヘテ、待伏ヲシテ居ツテ、多數ノ人ガ黒山ヲ爲シテ居ツテ、トテモ此處カラ上ツテハ宜クナイト云フノデ、下田港ニ往ツタ。多分此船ニハ憲兵モ乗ツテ居ツタニ違ヒナイ。下田港へ往ツタ所ガ、下田港ニハ國民黨ノ者ガ、千三百餘名ト云フ者ガ、宵カラ焚出シテ待受ケテ居ツタ。現ニ其處ハ釜ヲ出シテ小サイ婦女子等ガ飯ヲ焚キ、或ハ大豆ヲ粉ニ挽イテ、ソレヲ拵ヘテ國民黨ノ者ニ喰ハセテ居ツタ有様デアアル。然ルニ若シモ是ニ上ツタナラバ、トテモ六十人ノ人數デハ通ルコトハ出來ナイデ、其夕激戦ヲ生ズルニ違ヒナイ。アノ様ナ狀況デアルカラ巡查ガ上ツテ往カヌト申シタニ違ヒナイ。人民ノ保護ノ職ニ在ル者ハ、サウ云フヨリ外ニ仕方ナイト私ハ思フ。ソレカラ咄嗟ノ間ニ云ツタコトナラバ、其コトハ信ズベキデアルト言ハレタガ、其千三百餘ノ人間ノ待チ伏セシテ居ル所ヲ難ナクズツトソコヲ通ルコトガ出來マスカ。我々ト同ジ種類ノ人間ガ、ボツ々々ソコニ往カレルモノデゴザリマセウカ。各々篝火ヲ焚イテ宵カラ待ツテ居ル。即チ竹槍鐵砲ヲ携ヘテ宵カラ待切ツテ居ル。サウ云フ所ニ、ズツト往ツテ通ルコトガ出來ルヤ否ヤト云フ事ハ、一寸事實ニ附イテ觀察ヲ下シタナラバ、能ク分ルニ違ヒナイ。

ソレカラ、林有造君ヲ兇徒嘯集罪ヲ以テ問フト、其兇徒嘯集罪ノ令ヲ發シタ。其命令ハ作爲ノモノデアツタト云フコトヲ言ハレタガ、果シテ作爲ノ命令ヲ發シタルヤ否ヤト云フ事ハ、是レハ辯明ノ限リデナイガ、儲テ此兇徒嘯集罪ノ令ヲ發シタノハ、何デアルカ。即チ令狀ヲ發シタノハ誰デアルカ。即チ裁判所ノ檢事正、其檢事正ガ發シタノデアルカ。決シテ是レハ林有造君ヲ捕縛スルタメニ發シタモノデナイト云フコトハ、茲ニ證ヲ



掲ゲテ御話セナケレバナラス。一月十五日ノ朝、和田村ノ投票所ニ於テ、郡書記細川速水ト云フ者ヲ殺シタ者ガアル。即チ和田村ノ投票所ニ於テ、細川ト云フ郡書記ガ投票管理ノタメニ、郡長代理ノ資格ヲ以テ臨監シタ所ガ、之ヲ殺シタ者ガアル。是故ニ役所デ役人ヲ殺スト云フコトニ至ツテハ、不問ニ置クベカラザルコト、シテ、是ニ於テ兇徒嘯集ト云フ事ガ出来タノデアアル、ト聞イテ居ル。而シテ此細川郡書記ヲ誰ガ殺シタノカ。何故ニ殺シタノカ。果シテ干涉ヲスルト云フ者デゴザイマスレバ、國民黨ノ者ハ殺ス筈ハナイノデアアル。況ヤ其事實ニ於テ實ニ怪ムベキ、實ニ慨嘆ニ堪エヌモノガアル。此和田村ト云フ所ハ、村長始メ助役收入役皆自由派デアアル。ソコデ高岡郡全體ノ狀況ガ、自由派ノ者ヲ國民黨ガ蠶食シタ爲ニ、遂ニ自由派ノ敗タルヲ慮リ、自由主義ヲ持ツ所ノ村長始メ、必死ニナツテ選舉有權者ヲ、説得ト云フカ、誘惑ト云フカ、私ハ敢テ惡イ口上ヲ以テハ申シマセヌガ、之ヲ誘導シタノデアアル。然ルニ到底尋常ノ誘導デハ之ヲ用フベカラザルガ故ニ、和田村ノ村長ハ其前晚、投票用紙ヲ持ツテ往ツテ、有權者ニ就イテ、スツカリ其投票ヲ拵ヘテ置イタ。即チ其前晚ニ拵ヘテ置イタ。唯國民黨ノ中ノ頭ノ硬イ、説イテモ説ケナイ者ノタメニ、儀式丈ノ投票ヲシヤウト思ツテ居ツタ所ガ、郡長代理トシテ郡書記ガ來タ。即チ選舉明細簿モ書カナケレバナラナイ。ソコデ之レヲ蔽フ手段ガナイカラ、遂ニ細川郡書記ヲ斬殺シタト云フコトダ。其斬ラレタ所ハ實ニ残酷ナル、名狀スベカラザル有様デアアル。其仕様ガ、切ツテ苦痛ノ聲ヲ發スルヲ防ガンガタメニ、横鼻揮ヲ以テ口ヲ締メテ居ツタト云フコトデアアル。如何デゴザイマス。残酷ナ仕様デアアルト云ハナケレバナリマスマイ。

ソレカラ又、十二日ニ立川雲平君ガ御演說中ニ、論、一方ノミ甚ダ残酷ナル處置ヲスルヤウニ述ベラレマシタガ、茲ニ又郡書記ノ斬殺ヨリモモツト甚ダシキコトガアル。國民黨ノ有志中隨分重立ツモノ、中ニ數ヘラルル菊池儀三郎ト申スモノガ、小筑紫ト云フ所ニ三人連レテ遊説ニ行ツタ。ソレハ二月三日ノコトデゴザイマス。之ヲ聞キ附ケテ彼ノ太鼓ヲ鳴ラシテ、大ニ人民ヲ集メ、宿毛部落ヨリ多數ノ自由派ノ者ガ出テ、遂ニ非常ニ敲キ、其極、何處カラ撃ツタカ、鐵砲デ頭ヲ撃チ、遂ニ菊池儀三郎君ハ死ンダノデゴザイマス。然ルニ其ノ死ンダ所ノモノヲ唯壯士ニ迫ラレテ、己レ自ラ死ンダガ如ク裝ハンガタメニ、臍部ヲ切ツテアル。腹ヲ自ラ切ツタ如クニシテアル。ソコデ國民黨モ自由派モ共ニ、彼ハ遂ニ迫ツテ己ムコトヲ得ズ、人ノ手ニ掛カルコトヲ避ケンガタメニ、身自ラ切腹シタモノデアラウト、思フテ居タ。所ガ裁判所ニ至リマシテ、遂ニ裁判醫ノ實檢スル所カラ、銃殺シタモノデアアル。ソシテ其銃殺シタコトヲ蔽ハンガタメニ、自ラ臍部ヲ突キシ如ク、自ラ腹部ヲ割イタ如クニシテ置イタ。如何デゴザイマセウ。人間ノ忍ンデ爲スベキコトデゴザイマセウカ。或ハ止ムナクシテ遂ニ切ツタトカ、撲ルト云フコトハアリマスガ、斯ク迄謀ツテ茲ニ至ルトハ如何デゴザイマセウ。國民黨ナル者必ズシモ殘暴ナルモノデゴザイマセウカ。唯天下ニ氣脈ヲ通ジテ、全國ノ筋ヲ引イタ所ノ、新聞紙ノ如キモノヲ持タナイカラ、……一ハ勝手次第ナ報告ガ治クナリ、一ハ正々ノ事モ天下ニ公ケニスルヲ得ナイト云フ丈ノ違ヒデアアル。實ニ遺憾千萬ノ次第デアアル(拍手)。モウ一ツ立川雲平君ノ御說ニ、中村公同會ニ於テ巡查ト憲兵ト議論ガ起ツタ。巡查ガ私ナルコトヲ致シタト云フコトヲ言ハレマシタガ、是レハ大ニ事實ヲ誤ツテ



居ラウト思ヒマス。ナル程巡查ト憲兵ト争ヲ生ジタガ、喧嘩ヲシタカ。拙者ハ與リ知りマセヌガ、此喧嘩ハ、………公同會ト云フ所ハ、自由派ノ集會所デアル。ソレト幡多俱樂部ト云フモノガアツテ、國民黨ノ俱樂部トナツテ居ル。ソコデ此公同會ニ國民黨ノ者ガ覗キニ往ツタトハ言ヒマスケレドモ、或ハ惡口雜言ヲシタモノト見エマス。其位ノコトハアリマセウ。ソコヲ公同會ノ者ガ出テ來テ、ソウシテ其處デ喧嘩ヲ始メタ。其場合ニ此駐在巡查ガ止メタト云フコトデゴザイマス。即チ其駐在巡查ノ名ハ、山崎菊太郎ト云フ者デアル。併シ其巡查ノ處置ガ宜シクナカツタカハ知りマセヌガ、議論シタ末ニ、其場ニ於テ遂ニ殺サレタノデアル。山崎菊太郎ハ遂ニ殺サレタノデアル。其殺サレタモノガ、三四人ノ憲兵ト議論シタト云フコトハ、蓋シ幽靈ニアラザレバ出來ヌコトデゴザイマセウ。

ソレカラモウ一ツ、ドナタノ演説デゴザイマシタカ、竹中清明ト云フモノガ演説中、臨監ノ警部ガ殺サシメタト云フコトヲ言ハレマシタガ、私ハ警察官ノ辯護ハ相務メマセヌガ、此時ニハ私モ現ニ須崎ノ地ニ居リマシテ實況ヲ知ツテ居ルノデアリマスカラ、事實相違ト云フコトヲ確メンガタメニ、辯護ニ當ルカハ知りマセヌガ、一言述べナケレバナラス。此竹中清明ノ演説ハ「吾ヲシテ執政者タラシメヨ」、斯ウ云フ演題デアツタノデ、「吾ヲシテ執政者タラシメヨ」ト云フコトハ、決シテ小役人ノ事務ヲ執ラシメヨト云フ意味デハナク、内閣大臣タラシメレバト、斯ウ云フコトデアルト、前ニ註釋ヲシテ置イテ演説ヲシタト云フコトデアリマス。此竹中清明ハ活潑太郎トカ申シテ居ルガ、折々ハ随分價ノナイ演説ヲスル者ダ。少シ死ンダ人ヲ誹謗スルヤウニ當ルカモ

知りマセヌケレドモ、是ハ局外ノモノデアアル、局外ノモノデアルカラ、是ガ口ヲ藉ツテ國民黨ニ對シ讒謗罵詈ノコトヲ、言ハシメヤウト云フ計畫ニ出テ居ツタト云フ推測ヲ、國民黨ノ者ハ起シタニ違ヒナイ。ソレ故ニ亂暴ヲシ、或ハ演説ノ妨害ヲシタニ違ヒナイ。現ニ演説中ニ大キナ石ヲ投ゲタト云フコトデアアル。ソウスルト辯士ハ警察官ニ保護ヲ求メテ、外部ノ取締ヲ請求シタカラ、警察官ハ外部ノ取締ヲ指揮スル途端ニ、尙本續々石瓦ヲ投込ンダ。是デハ到底取締ガ出來マセヌ所カラ、解散ヲ命ジタ。此時壯士ガ入込ンデ亂打シタカラ、竹中ハ頻リニ警察官ニ保護ヲ乞ヒマシタ。警察官ハ竹中ニ裏カラ逃ゲイト云フコトヲ命ジタカラ、裏へ逃ゲタ。其途端ニ裏ノ方ニ「キヤツ」ト云フ聲ガシタカラ、往ツテ見レバ竹中清明ハ斬ラレテ居ツタ。實際ニ於テ公衆ノ前デ致シタコトデスカラ、人ヲ殺サセルト云フコトハナイ。此場合ニ取締ガ宜シクナイ所ハアリマシタラウガ、併シ此演説場ハ前カラモ横カラモ這入ルコトガ出來ル場所デアアル。是丈ノコトヲ以テ警察官ガ差圖ヲシタト云フコトハ、特筆大書スルト云フコトハ誣ユルノ甚シキコトデアアル。

其他國民黨カラ或ハ亂暴ヲシテ、遂ニ喧嘩ヲ始メタト云フガ如キ、是ハ互ニ衝突シタト云フコトハ實ニ歎ハシキコトデ、立憲政體ノ下ニ立ツテ此衝突ヲ生ジタノハ、御互ニ歎ハシキコトデアルガ、數年來ノ結果カラ斯ウナツタノデ致シ方ガナイコトデアアル。國民黨ト雙方トモ壯士ヲ備ヒ來ツテ、互ニ競ツテ何某々々ヲ入レマスト云フ連判狀ノ如キモノハ、今日集メテ見レバ澤山アリマス。私ハ決シテ自分ノ組合ヲ褒メルデハナイ、殘念ナガラ宜シカラザルコトデアアル。併シナガラ自由派ハ之ヲ以テ宜シイト斷言スルニ至ツテハ、ドウモ許スベカ



ラザルコトデアアル。而シテ投票紛失ニ至ツテハ、今武市安哉君カラ縷々述べラレマシタ投票紛失ハ、慨歎ニ堪エヌト云フコトハ、獨り自由派バカリデナイ。私共ハ遺憾トスル所デアルケレドモ、其投票ヲ増減シタ、或ハ變更シタト云フ事ニ至ツテハ、大ニ事實ヲ誣ユルコトデアアル。總テ選舉ノ競争ノ仕方ハ今申シマシタカラ、大體知ルニ足リマセウガ、選舉ノ當日、自由派ノ先生達ハ君子然トシテ居ツタカト申シマスレバ、現ニ浦ノ内ノ投票所カラ投票函ヲ送ルニ、之レヲ奪ハル、ガタメニ、警察官ノ保護ヲ願ツテ、野見町ヲ迂廻シテ船ヲ雇フテ須崎ノ選舉場ヘ持込ンダノデアアル。又大野郷ノ選舉場ヘ自由派ノ壯士ガ妨害ヲ與ヘテ、警察官ガ漸ク取贖メテ無事ニ終ツタコトガアル。斯ノ如キコトハ此方バカリデナイ。向フニ於キマシテモ妨害ヲ務メタコトガゴザイマセウ。併シ、互ニ勝ヲ制セントノミ務メ、其他ノコトハ顧ミズ、眼中勝ツト云フ一事ヲ以テ進ンダノデアアル。夫ノ諸木ノ投票所ヲ合併シタ、合併シタカラ不正トカ云フノガ、是レモ誣ユルノ甚ダシキコトデ、抑々高知縣第二區ノ幅員ハ東西四十四里デゴザイマス。有権者ノ數ガ二千二百五十一人デ、サウシテ之ニ當ル警察官ハ百五十九人デゴザイマス。高知縣ノ全體ノ過半ハ第二區デゴザイマス。ソレデ車ノ行キマス所ハ、僅ニ佐川ト云フ所ニ通ズル伊野ト云フ三里バカリデアアル所ノミ、其他決シテ車ノ通ズル所ハナイノデアアル。電信局ハ須崎ト云フ所ト、中村ト伊野ト云フ所デ、郵便ヤ其他書類ヲ送ルトキハ、途中デ邀撃シテ奪ハレルト云フ狀況デアアルカラ、之ヲ十分保護シヤウト云フニハ、選舉場ガ澤山デハ取締ガ附カヌカラ、法律規則ヲ犯サザル以上ハ、合併シテ取締ルト云フコトハ、別段不可ハナイト思フ。然ルニソレヲ私シタモノデアルト云フハ、誣ユルモ甚ダ

シイコトデアリマセウ。

ソレカラ、選舉長ハ投票ヲ開クニ當ツテゴチャ々々ニシテヤツタト言ヒマシタガ、抑々選舉法第四十八條ニ「選舉長ハ投票函送達ノ翌日選舉委員立會ノ上各投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スベシ」トアル。選舉長ハ各投票ノ總數ト投票人ノ總數ト照シ合セタ上デ、開票スルノデゴザイマス。成程前年ニ於キマシテハ、一村來ルト一村來ル度ニ、其投票ト投票人ト引合セテ開クト云フコトニヤツタガ、此選舉法ノ公文カラ解シマスレバ、各投票函ノ總數ヲ計算スベシト云フコトガアリマスカラ、各函ヲ開イテ大キナ投票函ニ一緒ニ入レテ、投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スルノハ決シテ法律規則ヲ犯シタ仕方デハナイノデアアル。ソレカラ國民派ヲ先ニ入レタ、約定ヲ履行セヌト云フノガ、疑ノ原素ノ權デゴザイマスガ、ソレハ私モ茲ニ判事トシテ裁判ヲ與ヘル譯ニハ行キマセヌガ、私ガ確ニ承ツテ取調べタ所デハ、先年國民派ガ失敗ニ懲リ、先年破レタノニ懲リテキルカラ、彼等ハ私サレタリト云フテ、宵カラ郡役所ノ門前ニズツト繰込ムコトガ出來ルヤウニシテ、郡役所ノ隣リニ俱樂部ガアリマスカラ、其俱樂部ニ控ヘテ居テ、餘程前カラ門ノ方ニ迫ツテ、門ヲ開クト直グズツト押シテ這入ツタト云フ事實ガアル。是レガ先ニ入ツタカラ私ヲシタト云ツタ所ガ、其所マデ來テ集ツテキル所ノ國民派ノ者ハ、時々出テ自由派ノ者ガ先キニ來ハセヌカト云フ見張ヲ置イテ、先キニ來ラレヌ中ニ、門前ニ集ツテ、門ガ開クト直グ這入ツタト云フコトデアアル。先キニ這入ツテ居ル者ノアル以上ハ、籤ヲ引キマシタ所ガ、籤ハ確カ立會ニナツテ、斯ウ云フ函ヲ拵ヘテ箱ノ中ニ手ヲ入レテ、籤ヲ引イタト云フコトデ



アル。處方澤山國民派ノ者ガ先ニ這入ツテ居レバ、先キノ者ガ委員ニナルノハ善クナイコトデアアル。之レヲシタノハ法律ニ背イテキルトハ言ハレナイ。ソレカラ現ニ其場ニ於テ議論ノ起ツタト云フコトモアリマスガ、選舉明細書ヲ見マシテモ、其當時ノ新聞ヲ見マシテモ、其當時ハ至ツテ靜肅デアツタト云フコトデアアル。殊ニ選舉規則ニ於テ、其場デ異議ヲ申立テラレナイト云フコトハ分リ切ツタコトデ、極ク靜肅デアツタト云フノガ事實ニ相違ナイ。多數ノ人ハ雙方共入ツテ、斯ウ竹欄ノアツタ所ニ澤山人ガ居タ。即チ其時ニ現ニ見テ居タ者ガアル。然ルニ一方ノ數ヲ讀マナクシテ、之ガ出來タト云フコトヲ十二日ニ言ハレタ人モゴザイマスガ、得點數ヲ時々讀上ゲネバナラヌモノデアアル。得點數ヲ讀ミ上ゲテ、ソウシテ爲シタモノガ、ドウシテ中デ百何點ト云フ點數ヲ得ラルルヤウナコトガ、ソコデ出來マセウカ。幻術遣ヒ魔術遣ヒナラバ知ラヌコト、人間ガ如何ニ爲サント努メタ所ガ事實ニ於テ出來ナイコトデアアル。思フニ先年ニ勝誇リ、且ツ今回ト雖モ、隨分和田村ノ如キハ郡書記マデ殺シテ、ソウシテ事茲ニ至ツタモノデアアルカラ、負ケタト云ツテ實ニ殘念デゴザリマセウ。ソレハドチラニシテモ當然ノコトデアアル。其負ケタト云フコトヲ滿天下ニ、弱クテ負ケタノデナイト云フコトヲ表白スルタメニ、或ハ投票ノ數ヲ増減シタトカ、特ニ其選舉投票場ヲ合併シタト云フ好イ材料ガアルカラシテ、ソウシテ其說ヲ作爲シテ、天下ニ公ニスルト、斯ウ云フコトニ人情ガ至ツタノハ、宜シクナイコトデゴザイマス。負ケヌコトヲ努メテ、天下ニ己ノ黨派ノ勢力ヲ失ハヌヤウニ努ムル所ノ、其狀況カラ考ヘテ見レバ、必ズ其點ニ出タラウト想像スル外ハナイノデアリマス。

ソレカラ、投票ヲ盜マレタ。是ハ即チ盜マシタノデアアルカ。或ハ盜マレタノカモ知レナイガ、實ニ頓馬デアアル。是ハ固ヨリ行政上相當ノ處分ガアルノガ當然デアリマス。當然デアリマスガ、是レハ國民派ノ方ニ加擔シテ盜マシタト云フニ至ツテハ、決シテ黙々ニ付スル譯ニハ行カナイ。現ニ和田村ノ投票ヲ背ニシテ之ヲ蔽ハンガタメニ、郡書記ヲ殺シ、サウシテ其投票函ヲ舁イデ宿毛マデ逃ゲテ、逃ゲ果サズシテ愛媛縣マデ行ツタ。是レハ自由派ガセヌカ知レマセヌ。必ズシモ自由派ガシタトハ言ヒマセヌガ、其村長ガ血塗レニナツタ實跡モアリマス。ソレカラ村長ノ犢鼻褌ヲ以テ、郡書記ノ口ヲ括ツテ置イタト云フコトモ、其當時承リマシタ事デアリマス。斯ノ如ク人ヲ殺シテマデモ、勝ヲ制セントスルノデアアルカラ、郡役所ニ置イテアル所ノ函ヲ奪フ位ノコトハ、何デモナイコトデゴザイマセウ。郡役所ノ函ヲ盜ンダノハ國民派デアアル。サウシテ又其管理者デアルト明言スルノハ、是レモ又誣ユルノ甚ダシキモノデアアル。併シ取調べテ來ヌ限リハ、サウカモ知レナイガ、ソレナラバソレデ、相當ノ處分ヲスルノガ當然デアアル。決シテ調べルノヲ宜クナイトハ言ハナイ。斯ノ如キ黨派ノ競争デサウシテ其競争ヲサセルニ與ツタモノハ、雙方ノ縣會議員、或ハ代言人、殊ニ村長ナドニ至リマシテハ、今述ベル事跡ノ如ク甚ダシキ干涉ヲシタノデアアル。村長ノ干涉ハ宜シイ。外ノ者ノ干涉ハ宜クナイト云フ事ニ至ツテハ、本員ハ決シテ服スル事ガ出來ナイ。現ニ他ノ郡村ノ村長ガ態々遠方ノ區ニ來ツテ、サウシテ頻リニ世話シテ居ルト云フ事實ハ、雙方トモアツタ。決シテ片方バカリデアツタトハ言ハナイ。高知縣ノ選舉ノ仕方ハ、遺憾ナガラ決シテ正當ノモノデナイト云ハナケレバナラナイ。正當ヲ缺クモノト云ハナケレバナラナイ。



立憲政治ノ今日ニ於テ、爲スベカラザルコトデアルト云フ事ハ、私ハ言フノデアアル。現ニ村長ガヤツタニ違ヒナイト云フコトハ、是ハ蔽フベカラザル事實デアアル。如何ニ自分ノ方ノ是ヲ主張センコトヲ欲スルコトヲ努メテモ己ノ非ハ非トスルガ宜イ。唯一方ニ偏スルト云フコトハ、正當ナモノトハ言ハレナイ。ソレカラ、立川雲平君カドナタデゴザイマシタカ、宿毛ノ村長ノ證明書ダト云ツテ、頻リニ御讀上ゲニナリマシタ。宿毛ノ村長ハ自由派デアアルガ、自分ノ方ニ勝手ノ宜イ證明書ナラバ、私モ車ニ積ンデ來テ御目ニ掛ケマセウ。己レノ勝手ニ作ツタモノヲ持ツテ來テ、ソレヲ無二ノ證據トシテ、之ヲ決議シテ置カウト云フガ如キハ、本員ハ賛成ガ出來ナイ。

ソレカラ又、武市安哉君ノ言ハレタ事ニ就イテ、モウ一ツ駁シテ置カナケレバナラナイ。片岡健吉、林有造ノ二氏ヲ入レタ者ガ、現ニ證明ヲ致シテ居ルト云フノデアアル。一寸斯ク言ヘバ據アル説ト聞エマスガ、決シテ之レヲ以テ證據立テル譯ニ行クマイト思フ。何故カト申シマス、選舉後今日ノ境遇ハドウデアアル。互ニ物ヲ賣ラス。女房ハ去ル。交際ヲシナイ。サウシテ其今日ノ生活上ノ道ヲ以テ苦メテ居ルノデアアル。ソレデ自由派ノ澤山ナル村落ニ於テハ、勢ヒ外面ニ同意ヲセヌト、生活ヲ保テナイニ依ツテ、畢竟獨立心ニ乏シイ百姓ガ多イノデアアルカラシテ、互ニ選舉區……彼等ノ境遇ニ於テ怪シムニ足ラナイ。斯クノ如キ交際上、日々ノ取引上、生活上カラ、此方ヲ責メテ之ニ判ヲ捺キ、致シ方ガナイカラ捺クモノモアルノデアアル。現ニアノ證明書ニモゴザリマス。私ハ被告ノ位置ニ立ツテ見マシタノデゴザリマスガ、コチラノ方ヲ入レタニ相違ナイ。現

ニ認メテ居ルニ相違ナイ者ガ、印ヲ捺イタ者ガアルノデアアル。是ハ其當時ノ競争ノ餘波ヨリ出來タモノデ、即チ選舉競争後ニ出來タモノデアリマスカラ、斯ノ如キ脅迫ノ状態ヲ以テシタノデアアルカラ、之レヲ以テ決シテ信ヲ置クコトハ出來マセヌ。又之レニ反シテ國民派ノ多イ土地デ、自由派ヲ苦ムルト同一デアアル。矢張之ニ從ハナケレバ、勢ヒ今日ノ生計ヲ宜ウ保タナイ。生計ヲ宜ウ保タナイカラシテ、表面——心ハイザ知ラズ、表面ハ先ヅソレニ同意スルノハ相當ノコトデアアル。併シ此事ハ先輩ガ段々憂ヘマシテ、既ニ諸君ニ於キマシテモ知ラレマスルガ如ク、斯ノ如クニ至ルノハ宜シクナイト云フコトヲ以テ、段々勸告サレテ、今日唯今ノ所デハ、段々熱度ヲ減却スルコトデアリマス。即チ先輩者ノ働キニ由ツテ今日ハ稍々平和ニ近イ方ニ赴イテ居ルコトデアアル。併シ先キニ武市安哉君ガ言ハレタ證據ハ、最モ競争ノ甚ダシキ時ニ現レタモノデアリマス。決シテ之レヲ證據トスルニ足ラザルモノデアリマス。夫ノ八百何十人ト云フ、武市安哉君ガ擧ゲラレタ證據ノ人數中ニハ自分ノ姓名ヲ書イテ投票シタ者ハ僅カナ人數デアアル。ソレハ八百何十人ノ中六百何人ト云フ者ハ、皆代筆ヲ以テ投票シタト云フデアアル。果シテ然ラバ其選舉ノ當時ハ先キニモ述べル如ク、互ニ壯士ヲ以テ脅迫シテ、印ヲ捺カセタモノハ澤山アルカラ、ソレヲ持ツテヤルトキニハ何時デモ出來ル話デアアル。

其他斯ノ如キ類ヲ擧ゲテ日月ヲ追ツテ言ヘバ、私デモ澤山書類ヲ持ツテ居リマス。書類ヲ持ツテ居リマスガ詰ル所先キニモ度々申ス通、互ニ相伯仲スルノ致方デ、遺憾千萬デゴザリマス。斯ノ如キ狀況ノゴザリマスルコトハ、恐クハ他ノ府縣ニ於キマシテモ多少ゴザリマセウ。シテ見マスレバ、此事實ヲ十分調査シテ、而シテ



後ニ相當ノ處分ヲ乞フトカスルトカ、求メルトカ、云フコトデゴザリマスレバ、ソレハ隨分至當ノコトデアアル。前回ニ、上奏案ノ時ニアレ丈ケ論ジタ故ニ、今此ノ處デ持チ出シテ來テ、タダチニ決議録ニ載セテ置ク。斯ウ云フガ如キ仕方ハ甚ダ輕薄ノ致方ノミナラズ、決シテ此ノ代議士トナツテ、國民ヲ代表シテ居ル者ガ、輕シク爲スベキコトデハナカラウト思フ。ソレ故ニ、此干涉ト云フコトハ決シテ宜シクナイ。村長ガシタノモ惡イ。其他會社ノ如キ、此事ノ大ニ人心ヲ傾クルノ力アル者ガヤツタナラバ、是モ宜シクナイ。其實ヲ調べルト云フナラバ、議院ガ調べルモ、隨分面倒ノコトデゴザリマセウ。議院ガ文書ヲ發スルコトモ出來ナケレバ人ヲヤルコトモ出來ナイ。役人ニ聞イタ所ガ知ラナイト云フデゴザリマセウケレドモ、各縣カラ出テ居ル者ガ皆相集ツテ以テ證據トスルニ足ルヤ否ヤト云フコトヲ決メルハ、左程出來ヌコトデモアリマスマイ。然ルニ此道ヲ履マズシテ、サウシテ直チニ決シテ仕舞フ。決議録ニ載セテ置クト云フガ如キ、決シテ、本員ハ賛成スルコトガ出來ヌノデアリマス。謹ンデ反省ヲ乞ヒマス。(拍手)

### 第三、大正八年一月第四十一帝國議會衆議院ニ於ケル原内閣最初ノ私ノ質問演說(速記録)

諸君。私ハ唯今總理大臣、外務大臣、大藏大臣ノ御演說ヲ拜聽致シマシタ。其御演說ニ對シマシテ少シク御質問ヲ致シテ見タイト存ジマス。先ヅ以テ外交方面ニ互リマシテ御尋ヲ致スノデアリマスガ、是ハ總理大臣ヨリ御答下サレマスモノト、外務大臣ヨリ御答ニ相成リマスモノト、或ハ陸軍大臣ヨリ御答ニナルベキモノモアルカト存ジマス。何レヨリ御答下サレマシテモ宜シイノデアリマス。

第一ニ於キマシテ、實ハ總理大臣以下ノ御演說ニ對シマシテハ甚ダ失望ヲ致シタノデアリマス。現内閣ハ國民ノ基礎ノ上ニ立テラレタモノデアリマシテ、所謂民意ニ基キ國政ヲ處理セラル、ト云フコトハ、原内閣員諸公ノ一ノ信條ト信ジテ居ツタノデアリマス。ソレ故ニ此施政ノ方針ヲ御演說ニ相成ルニ當リマシテハ、必ズヤ講和會議ニ於ケル問題等ニ就キマシテモ、我國ヨリ要求スル問題ハ勿論、列國間ニ永遠ノ平和確保ノ上ニ於テ、貢獻ヲセラル、所ノ抱負ヲ述ベラレ、サウシテ國民ノ意思ヲ作興シ、之ヲ統一セラル、コトニ努メラル、モノト信ジテ居ツタノデアリマス。圖ラザリキ、唯今御演說ヲ承ツテ見マスルト、私ノ豫期ニハ副ハヌモノガ多イノデアリマス。ソレ故ニ先ヅ信條ヲ分ケテ御尋ヲ致シテ見タイト思フ。彼ノ倫敦宣言ナルモノニ依リマスレ



バ、宣言加盟各國中ノ、一國デモ同意ヲセザル場合ニ於テハ、敵側ト何等條約ヲ締結スルコト能ハザル事ハ、昭々トシテ明文アルト思ヒマス。然ルニ昨年休戦後直チニ英、佛、伊ノ諸國ニ於キマシテモ講和ノ基礎條件ニ就テ、絶ヘズ意見ヲ交換シテ居ツタヤウニ、其模様ガ外電ノ報道ニ依ツテ明カナルモノデアリマス。然ルニ日本ト英、佛、伊ト、是等ノ間ニ於テ交渉ノアツタト云フコトハ、一向聞エナカッタノデアリマス。日本ノ全權ガ之ニ參加シテ、交渉ヲ致スコトニ相成ツタト云フコトハ、本年本月十三日ニ於ケル巴里會議ガ、初メテノヤウニ思フノデアリマス。果シテ是等ノ事實ニ就テハ如何デアリマスカ。講和條件トシテ日本單獨ニ要求ヲ致スベキモノハ、サウ數ハ無イト思ヒマス。殆ド既定ノ事ト申シテモ宜シウゴザイマス。左マデ難問題トモ思ハヌノデアリマス。併ナガラ各國共通ノ問題ニ至リマシテハ、將來國際關係ヲ或ハ一變スルガ如キ、最モ重大ナルモノガアリハセヌカト思フノデアリマス。

茲ニ例ヲ舉ゲテ申シテ見マスレバ、國際聯盟ノ如キモノ。此國際聯盟ノ如キハ、世界ノ永遠ノ平和ヲ確保スル所ノ、所謂國際聯盟ノ主義デアリマスレバ、主義トシテハ何レノ國ト雖モ、不同意ヲ申ス所ノ、道理ハ無イト思ヒマス。併ナガラ事實ニ於キマシテ、永久ニ其戰爭ヲ根絶セシムルト云フ方法ニ至リマシテハ、隨分面倒ナ事デハナイカト思ヒマス。是等ニ對スル現内閣諸公ノ廟議胸算ハ如何デアリマスカ。今一ツ之ヲ碎イテ申シテ見マスルト、國際聯盟ヲ有效ナラシムルノ方法トシテハ、今日既ニ現レテ居リマス所ノ一ヲ舉ゲテ見マスルト、軍備制限ノ如キモノデアリマス。或ハ徵兵ノ制ヲ撤廢スベシ抔ト云フ趣旨ヲ、公ケニシテ居ル主張モア

ルヤウデアリマス。此軍備制限ノ問題ノ如キニ對シテハ、現内閣ニ於テハ如何ナル意見ヲ御決定ニナツテ居リマセウカ。今ヤ聯合諸國ノ政府當局者ハ、卒先シテ講和問題ニ關スル意見ヲ發表シテ、サウシテ各國民ノ意見ヲ作興統一スルコトニ努メテ、所謂國民外交ノ實ヲ現ハサントスルコトニ努メテ居ルト云フコトハ、御承知ノ通りデアリマス。我政府ニ於キマシテハ、此講和問題ニ對シテ、未ダ御意見ヲ發表セラレタヤウナ事ヲ承知致シマセヌ。前申上ゲマシタ如ク、現内閣ハ、民意ニ基イテ國政ヲ變理スルト云フ御信條ヲ持タレテ居リマス以上ハ、默々ノ間ニ於テ、如何ニシテ民意ノ歸スル所ガ知レルノデアリマセウカ。勿論全權委員ハ既ニ出發ヲサレ、講和會議ニ赴カレル所ノ途中ニモアリ、先發サレタ方モアルヤウデアリマス。然ラバ是等ノ事ニ就キマシテハ、廟議ハ既ニ定マルモノガアルニ相違ナイト思ヒマス。然ラバ獨リ日本ニ直接ノ關係ノミナラズ、世界ノ平和ニ貢獻スルト云フ御抱負ガアリ、又世界強國ノ五箇國ノ一トシテ永遠ニ此戰爭ノ根絶スルヤウニ努メルト云フコトハ、當然ノ責務。此責務ヲ盡シテ以テ我國威ヲ發揚スルト云フコトハ、絶好ノ機會デアル。然ラバ此際何故ニ其意見ヲ御發表ニナツテ國論ヲ指導シ、統一スルコトニ御努メニ何故ナラナイノデアリマセウカ。願クハ是等ニ對スル御所見ヲ伺ヒタイト存ジマス。

次ハ西伯利出兵問題ニ就テ伺ヒマス。唯今外務大臣ヨリモ御説明ニ相成ツタノデアリマスガ、ソレニ拘ラズ御尋ヲ致サナケレバ氷解シ難イ點ガアルノデアリマス。昨年八月確カ二日ト思ヒマスルガ發表サレマシタ所ノ政府ノ西伯利出兵ノ宣言ニ依リマスレバ、我兵ヲ浦潮ニ派遣スルト云フ事ハ、「チエク・スロバツク」救援。今



此救援ノ趣旨ハ、外務大臣ヨリモ述べラレタノデアリマス。而シテ此事ハ米國ノ提議ニ應ジテ其友好ニ酬イ、聯合列強ニ對シテ歩武ヲ齊ウシ、所謂履信ノ實ヲ舉ゲル。斯ウ云フ事ニ在ツテ、毫モ他意無キコトハ明白ナ事デアラウト思ヒマス。ソレ故ニ世間當時ノ傳フル所ニ依リマスレバ、我出兵ノ數ハ、米國ノ出兵數ト略ボ同一ノモノデアラウト云フコトヲ傳ヘテ居ツタモノデアリマス。然ルニ幾干モナク八月十三日ニ於キマシテハ、支那領土内ニ於テ、獨逸俘虜ノ率キテ居ル所ノ、過激派ガ侵入スルト云フ慮ガアルト云フコトニ名ヲ付ケテ、所謂侵入スル慮アリト稱シテ、滿洲駐屯軍ヲ滿洲里方面ニ移動セラレテ、且又名古屋師團ノ如キモ、其當時ノ前後ニ出動シタト思ヒマス。又我國ニ於ケル各師團ノ中カラ、小部分ヅ、出兵ヲサレタヤウデアリマス。結局出兵ノ數ハ、米國ノ出兵數ニ約十倍スル所ノ大兵ヲ西伯利ニ派遣サレタヤウニ思ヒマス。與國ト協調ヲ保ツノ外ニ、毫モ他意無シト稱スルモノガ我國ニ限リ斯ク多數ノ兵ヲ出サナケレバナラス。斯ウ云フ事ニ至リマシタ所ノ其本ハ、各國協調ノ結果斯様ナ事ニ相成ツタモノデアリマスカ。固ヨリ陸軍ノ精銳ハ氣候ノ沍寒ト闘ヒ、運輸ノ不便ト闘ヒ、是等ノモノト闘フコトハ事實相違アリマセヌガ、其外ニ敵ガ何處ニ在ツタノデアリマシヨウカ。ドウ云フ戰ヲシタノデアリマス。別ニ敵ハ無カリシヤウニ思ハレル。左レバコソ派遣軍ノ殆ト三分ノ二ガ、今日召還サレテ居ルデアリマセヌカ。此派遣軍ノ艱難辛苦ハ如何ニモ同情ニ堪ヘナイト私ハ思フノデアリマス。斯ノ如キ大兵ヲ動かスコトノ必要アリトスレバ、當時臨時議會ヲ開イテ國民ノ贊同ヲ得、國民ヲシテ其必要ヲ知ラシメテ、出兵スルモ勇ンデ出デ行ク、斯ウ云フコトニナラナケバナラヌ事柄デアツタト思フノデアリ

マス。然ルニ各師團ヨリボツ々々兵ヲ出サレ、甚シキニ至テハ途中ノ停車場デ兵隊ノ乗テ居ル列車ハ、通常客車ト行遇フテ兵隊ノ方カラ萬歳ノ聲ヲ舉ゲ、而シテ此方ノ方ハ何處ヘ行ク兵ヤラ知ラヌノデ一向之ニ應酬シナイ。而シテ出テ行ツタ者ハ、沍寒ト闘ヒ、輸送ノ不便ト闘フ、如何ニモ氣ノ毒千萬デアアル。實ニ萬腔ノ同情ニ堪ヘザルモノデアリマスガ、何故ニ斯ノ如キ大兵ヲ議會ノ協賛モ經ズ。經ルノ機會ガアリナガラ、ソレノ事ヲモセズ。斯ノ如キ處置ヲ執ルノ已ムヲ得ナカツタト云フコトガアリマセウカ。私ハ今尙十分ニ了解ヲ能ウ致サヌノデアリマス。

固ヨリ是等ノ事ハ前内閣ノ事デアリマス。現内閣ノ事デアリマセヌ。去リナガラ現首相ハ當時外交調査會ニ列セラレ是等ノ事ニハ參與セラレタモノデアリマス。然レバ其事ニ對シテハ、十分ナ御説明ヲ御與ヘ下サルコトガ出來ヤウト思ヒマス。願クハ御説明ヲ詳細ニ願ヒタイト思ヒマス。今一ツハ派遣軍ノ大部分ハ既ニ引返シ、又今外務大臣ノ御説明ニ依リマシテモ、引返スノ御方針ハ明カニナツタノデアリマス。併ナガラ此殘留シテ居ル所ノ兵モ未ダ大分アルヤウデアリマス。而シテ其兵ハ唯今ノ御説明ニ依リマス、西伯利秩序ヲ維持スル必要ガアルト云フコトデアアル。他國ノ秩序ヲ維持スル必要アリトシテ、兵ヲ出サンナラヌトスレバ、支那ニ事ガアレバ、日本カラ兵ヲ出サンケレバナラヌト云フコトニナルノデアリマセウ。之ヲ西伯利ニ限ツテ秩序ヲ維持スル爲メニ、出兵ノ中ノ大部分ヲ殘サナケレバナラヌト云フコトハ、列國即チ與國ト協調ノ結果斯ノ如クナシテ居ルノデアリマセウカ。又如何シテ、其秩序ヲ維持スルト云フ御方針デアリマセウカ。聞ク所ニ依リマ



スレバ、西伯利方面ニ於テハ、幾ツモノ政府トハ申シマセヌガ幾ツモ勢力ガアルヤウデアアル。サウシテ甲ノ國ハ其中ノ一部ヲ應援シ、乙ノ國ハ又其他ノ勢力ヲ應援スル、斯ウ云フヤウニ致シテ居ル奇觀ヲモ呈シテ居ルカノ如ク承ツテ居リマス。斯ノ如キ現狀ト致シマスレバ、我國トシテハ、如何ニシテ其秩序ヲ恢復セラル、御意見デアリマスルカ。此二點ニ就テ御説明ヲ煩シタイト存ジマス。

次ニ豫算ニ就テ伺ヒタイノデアリマス。今大藏大臣ノ御説明ヲ承リマスレバ、内閣組織當時ニ於キマシテ、前内閣豫算見積書等ガ纏ツテ居ル時ニシテ、到底十分ノ經綸ヲ現スノ時ガ無カツタ、餘裕ガ無カツタ。且ツ戰爭ノ終リ、即チ平和克復後ニ於テノ狀態ノ變化、經濟界ノ安定ヲ待テ、更ニ永遠ノ計畫ヲ立ツルノ御積リノヤウニ承知致シタノデアリマス。此點ニ對シテハ、強テ異論ヲ挾ムモノデアリマセヌ。日淺クシテサウ輒スク計畫ニ現ハスト云フコトハ、出來得ナイノデアリマセウガ、去リナガラ經綸抱負ノ點ハ、此際ニ於テ伺ハレル筈デアラウト思フノデアリマス。若シ大正九年ニ至ツテ經濟界ガ果シテ安定スルヤ否ヤ。何人ト雖モ保證シ難イノデアリマス。今日ノ經濟界ノ趨勢ヲ以テスレバ、寧ロ本年ヨリ明年ハ經濟界ノ狀態ガ、餘程困難ヲ呈スルニ相違ナイ。寧ロ見様ハ斯ウ見ルノガ相當デアリマス。然レバ明年ニ至ツテモ、未ダ財源ガ無イカラ永遠ノ事ハ致サナイトシ、結局現政府ニ於ケル抱負經綸ナルモノハ、高閣ニ束ネテ、民間ニ御示シニナラズシテ終ルト云フコトニナルト思ヒマス。此際ニ於テ此豫算外ニ於テモ、將來ハ斯ク々々致スト云フコトハ伺ハレヌノデアリマセウカ。幸ニ御抱負ヲ伺ハレ、バ、國民ハ深ク満足致スト存ジマス。而シテ私ノ豫算其モノニ就テ御尋ヲ

致ス所ノモノハ、餘リ其内容ニ入ルノデアリマセヌ。大體ニ於キマシテ、本年ノ豫算ハ、其見積方ガ放漫ト云フテハ些ト失禮デアリマスガ、或ハ樂觀ニ過ギハ致シマセヌカ。言ヒ換レバ豫算執行不能ニ終リハセヌカト思ヒマス。之ヲ一二點ヲ舉ゲテ申シテ見マセウ。

大正八年ノ租稅ノ收入豫算ニ依ルト、四億九千貳百八拾餘萬圓デアリマス。大正七年ノ豫算ヲ見マスト、參億六千八百參拾餘萬圓デアリマス。此間ニ於テ既ニ壹億貳千四百五拾萬圓ノ増加ニナツテ居リマス。若シ之ヲ大正五年、六年、七年ノ三箇年ニ平均シテ見ルト、其平均額ハ參億四千九拾參萬餘圓デアリマス。成程大正七年度ハ、先ヅ我國ノ經濟界民間ノ實狀ニ於テ、絶頂ノ時デアツタト思ヒマス。ソレ故ニ必ズ大正七年ノ豫算ガ相當デアツテ、此八年ニ幾分ノ増加ヲ加フベキモノニ非ズトハ申シマセヌ。併ナガラ壹億貳千四百四拾五萬圓モ増加スルト云フコトハ、是ハ見込デアリマセウ。或ハ水掛論ニナルカ知リマセヌガ、餘リニ樂觀デアアル。而シテ其内容ヲ伺テ見マスルト、ソレ々々豫算ノ説明其ノモノハ出來テ居リマス。併ナガラ隨分絶頂マデ來テ居ル。此事ヲ此豫算通りニ仕遂ゲヤウト存ジマスルト、實際ニ於テ、租稅誅求ノ聲ヲ聞カナケレバナラヌコトニナリハセヌカト、私ハ虞レルノデアリマス。現ニ今日既ニ大阪方面等ニ於テハ、營業稅ノ改廢ヲ主張致シテ居ル。其改廢ヲ主張シテ居ル所ノモノハ、收稅官吏ノ處置ト當業者ノ意見ト甚シク懸隔ヲ生ジテ、其結果ガ所得稅ニ及ビ、戰時利得稅ニ關係スルト云フヤウナコトカラ八釜シイノデアリマス。固ヨリ現大藏大臣ハ、誅求ヲナサレルト云フ御精神ノアルコト、私ハ考ヘマセヌガ、兎角部分部分ノ局ニ當ル者ハ當局者ノ意思ヲ迎ヘ、



所謂迎合シテ之ヲ努ムルト云フコトハ、避クベカラザル實情デアアル。其結果甚シキ怨嗟ノ聲ヲ聞カナケレバナラヌコトニ、陥リハセヌカト思フノデアリマス。

又官業収入ノ上カラ見マシテモ、大正七年ニ比較シテ六千六拾參萬餘圓ノ增收ヲ御見込ニナツテ居ル。大正七年其モノハ如何ニモ好景氣ノ時デアリマス。大正八年ニ至テハサウハ參リマスमित思ヒマス。例ヘバ此中デ見マスルト、製鐵所ノ如キ、此製鐵所ノ鐵ノ價其モノヲ、今日ノ米國ニ於ケル所ノ價等ニ參照シテ御覽ニナリマスレバ、此豫算ヲ御編成ヲナサツタ時トハ、實際今日既ニ違ツテ居リハシマセヌカ。詳細ノ事ハ豫算委員會ニ讓ルモノデアリマスガ、之ヲ要スルニ、官業及官有財産ノ收入モ、餘リニ増加ヲ御見込過ギニナツテ居ルヤウナ感じガ致ス。其上公債ヲ募集ナサル點ニ於テ、公債竝ニ借入金ノ已ムヲ得ザル所ノモノヲ見マスルト、電話交換ノ擴張、帝國鐵道ノ建設改良、朝鮮事業費、臺灣ノ事業費、樺太ノ事業費、ソレカラ臨時事件費、臨時事件ノ豫備費、斯ウ云フヤウナモノヲズツト數字ヲ擧ゲテ見マシテ、サウシテ大正七年度ニ於テ豫定セラレタ所ノ六年度ノ分ニシテ、臨時軍事費中未ダ募集ノ出來テ居ラヌモノガ、貳千萬圓程アルヤウニ思ヒマス。ソレカラ七年度ニシテ、七年度ノ臨時軍事費中募集ノ出來テ居ラヌモノガ、約參千百九拾五萬圓程アルト思ヒマス。ソレカラ七年度ノ分ニシテ、臨時軍事費ニ關スル本年二月三月ニ對スル費用ヲ、公債財源ニ御求メニナルベキモノガ、約五千萬圓程アルヂヤナイカト思フノデアリマス。一々數字ハ述べマセヌガ、之ヲ合計シテ見マスルト、參億六千貳百六拾五萬八千圓、其外臨時國庫ノ證券ノ發行見込額ハ參億萬圓、サウスルト本年中ニ於

テ募集セラルベキ公債額六億六千貳百六拾五萬八千圓デ、隨分大キナモノデアアル。尤モ此中ニ於テ參億萬圓ノ國庫證券ノ如キハ、多ク貿易ノ調節上必要ノモノト思ヒマスガ、左スレバ本年ノ實際ニ於テ、下半年ニ移ルニ從ツテ輸入ガ殖エテ、輸出ガ減殺サレルト云フヤウナ傾向モ免レマスマイ。然ラバ此參億圓ヲ悉ク發行サレバ、ケレバナラヌトハ思ヒマセヌ、又其中ノ參億六千貳百六拾五萬八千圓モ、悉ク本年度内ニ募集ニナラナケレバ、豫算ノ實行ハ忽チ差支ヘテ行クト云フ程ニモ思ヒマセヌ。此中明年ニ延ビテ構ハヌモノモ含マレテ居リマス。去リナガラ六億六千貳百六拾五萬圓ノ中、其大部分ハ無論本年募集シナケレバナラヌ。若シ募集ガ出來ナイデ、來年ニ多ク繰延ベラレテ構ハヌト云フナラバ、來年ニ其モノガ殘ツテ行ツテ、來年又募集スルト云フ必要ガ付イテ廻ル。是モ亦實際豫算實行不能ノ虞ヲ私ハ懷イテ居ルノデアアル。

此虞ヲ懷イテ、茲ニ之ヲ氷解スルヤウニ御説明ヲ請ヒタイト存ジマスル根元ハ、此戰爭始ツテ以來實際民間ニ於ケル所ノ事業ハ、非常ニ膨脹致シ來ツテ、是ハ先刻大藏大臣モ五拾億圓ト御述ニナリマシタガ、如何ニモ日本銀行ノ調査ニ依リマシテモ、五拾四億四千五百五拾圓ニ達シテ居ルト思ヒマス。洵ニ一面カラ見レバ喜ブベキ現象デゴザイマスガ、此中大正六年、大正七年ノ兩年ニ於テ新設セラレ、又擴張セラレタル此金額ノ二年分ヲ調べテ見マスルト、四拾貳億參千九百四拾參萬千參百圓ニナルノデス。此二年間ノ事業ハ、少ナクモ其半分程ハ、未ダ其基礎ヲ固メテ居ルモノトハ思ヒマセヌ。是カラ經濟界ノ甚シキ變態ヲ見ルコトナクシテ行ケバ、豫定ノ目的ヲ達セラル、モノガ大部分デアリマセウ。若シ經濟界ヲ壓迫スルト云フガ如キ事ガ



ゴザイマスレバ、此事業ノ蹉躓ヲ免レヌト云フコトハ、祝易キコトデアリマセウ。即チ今大藏大臣ガ述べラレマシタ御趣意ト、相反スルノ結果ニ終ルト云フ虞ヲ持マス。固ヨリ此中ニハ從來ノ仕事ヲ擴張シタモノモアル。擴張シタモノハ、比較的基礎ノアルモノ、上ニ擴張シタノデアリマス。四拾貳億參百餘萬圓ガ、悉ク其部分ニ屬スルモノトハ私ハ言ハヌノデアアル。併ナガラ現在ニ於キマシテドウデアリマスカ。嚮ニ拾貳圓五拾錢拂込ガ或ハ貳拾圓參拾圓シタノガ、今日既ニ五圓ニモ賣レヌモノガ澤山出來テ居ルデアリマセヌカ。斯様ナモノガ段々出來テ參リマスルト、他ノ確實ナル事業マデ影響ヲ及ボシ、延テ恐怖心ヲ起シ、或ハ世界ノ歴史ニモ見ルガ如ク、我國ニ於テハサウ澤山アリマセヌガ、世界ノ歴史ヲ見マスレバ甚シク膨脹致シタ——金デモ入ツテ膨脹致シテ、其終リニ恐慌ヲ來シテ、非常ナ慘狀ヲ見タト云フコトハ、明カナ事實デアアル。サウスルト我國ニ於テ、實ハ二二年間ニ四拾貳億圓程ナ資本ヲ卸スト云フガ如キコトニ相成リマスルコトハ、少々不用意ナ致方デアアル。然ラバ何等カノ動機ニ依ツテ恐怖心ヲ起シ、恐慌ヲ免レヌト云フコトハ、避クベカラザル事カモ知レマセヌ。斯様ナ一方ニ於テ扶翼シテ以テ成就セシメナケレバ、國力増進ノ上ニ大關係ヲ持ツト云フ事實ガ既ニ出來テ居ル。此時ニ當ツテ財政計畫ハ、是等ノモノニ向ツテ、懸念ヲ生ズルコトノ無イヤウニナサラナケレバナラヌ筈ト思フ。此趣旨ニ唯今ノ御説明ト豫算其ノモノ、實質トガ、副ハヌヤウニ私ハ考ヘル。若シ此豫算執行不能ニハ陥ラヌ、諸稅ハ決シテ誅求ノ聲ヲ聞クコトナシニ行ケルト假定致シマシテ、明年ノ事ヲ考ヘテ見ルトドウナリマス。申スマデモナク、國庫ノ上ニハ多少ノ剩餘金ヲ包擁シ、其剩餘金ヲ以テ臨時ニ要スル費用、

或ハ追加豫算等ノ財源ニ充テナケレバナラヌト云フコトハ、私ガ申スマデモナイ事デアアル。筒一杯ニ豫算ヲ組ンデ、剩餘金ノ生ズル所モナイヤウニ致シタナラバ、明年ノ實際ニ於テ困難ヲ見ルト云フコトモ、亦避ケ難イト云フコトガ伴ウテ參リマセウ。本年執行不能ニ陥ラヌトシテモ、明年度即チ前ノ御説明中、經濟界ノ安定ヲ待ツテ相當ノ經綸抱負ヲ御示シニナラウト云フ時ニ當ツテハ、業ニ既ニ餘地ハ無イノデハナイカ。

今一ツ茲ニ事實ヲ以テ申シテ見マセウ。普通ノ此一般會計等ハ姑ク措キマシテ、繼續費ノ將來ヲ見マスルト、大正八年以後ニ於テ、一般會計並ニ特別會計ノ既定ノ費用、拾四億五千參百七拾壹萬五千參拾四圓デアアル。是ハ或ハ是ヨリマダ餘計アルカモ知レマセヌ。是ハ昨年ノ豫算ノ調査ニ書イテアツタ所ノモノヲ取上ゲタノデアリマス。本年之ニ追加サレタ所ノモノガ、鐵道ダケニシテ參億參千五百八拾貳萬八千參百八拾六圓。教育費ノ方ニ於テ之ニ加フルモノガ四千四百萬圓。海軍ノ充實ナドト云フモノ、擴張ナドト云フコト、陸軍ノ整備ナドト云フコトガ、スツカリ度外ニ措イタ既定ノ本年ノモノヲモ、昨年マデノ既定ノ分モ、本年今マデニ現レテ居ルモノヲ加ヘマシタ所デ、拾八億參千參百五拾參萬參千四百貳拾圓トナル。此外ニ本年拾億圓許リノ歳入歳出ノ中ニ於テ、約貳億萬圓程ノモノハ、物價騰貴ニ伴フタモノト私ハ見マスルガ、今日ノ趨勢ヲ以テ行キマスレバ、甚シキ不景氣ヲ來セバ、今ノ新事業ナドハ打撃ヲ受ケル。不景氣ヲ來サヌヤウニシテ行クト云フ方法ヲ無理ニ採リマスレバ、流通貨幣ハ彌ガ上ニ増加スル。然ラバ物價ノ騰貴ハ段々進ム物價ノ騰貴ガ進んで來レバ、經常費ニ於テモ増加ヲ要シ、繼續費ニ於テモ増加ヲ要シ、此上ニ海軍ノ既定事業ヲ遂ゲル上ニ於テ、所謂海陸



——水陸ノ設備費デアリマス、是等ハ其當年頭ヲ出ス時ニズツト繼續費ヲ持つテ來ル。又此次ニ頭ヲ出ス時ニ、繼續費ヲ持つテ來ルト云フ。是ハ遣り方デアアル。所ガ斯ウ云フモノモ段々加ヘテ考ヘマスレバ、非常ナ金ヲ要スルノデアリマス。サウスルト本年豫算執行不能ニ陥ルコトハナイト致シマシテモ、明年ニ於テノ財源ニハ甚シキ苦痛ヲ免レヌ。斯ク論ジ來テ見マスルト、一ツ茲ニ御尋ヲシナケレバナラヌ事ガ到來スル。ソレハドウカト云ウト、左様ニ相成ルニ就テハ、明年ニ於テハ増稅ヲ計畫スルノデアアル。斯ウ云フ御抱負ガアルノデアリマスカ。ソレガアレバ辻褄ガ合ヒマスガ、ソレガナイトスレバ、是ハ一日送りノ遣方ノヤウニ思ハレル。一日送りノ遣方モ已ムヲ得ヌ時ニハ已ムヲ得ヌガ、是ガ爲ニ延テ經濟界ニ累ヲ及ボス由々シキ大事デアルト思フ。若シ増稅ヲセヌト云フガ如キコトハ有ルカ無イカ、知りマセヌガ、或ハ已ムヲ得ヌカモ知ラヌト云フコトヲ考ヘテ見マスルト、増稅ナドト云フモノハ、經濟界ノ困難ナル時ニ實行致サウナドト云フコトハ、私ハ甚ダ難イ事ヂヤナイカト思フ。ソレ故ニ昨年ニ於テ國家ノ必要トスル所ノ計畫ニ對シテ、増稅ヲ要スルナラバ、今ガ絶頂ノ好機會デアアル。若シ増稅ハ已ムヲ得ヌトシテモ、經濟界ノ沈衰シタ時ニ決シテ出來ベキモノデナイト云フコトハ、當席ニ於テ明カニ申シタ積リデアアル。殊ニ昨年ノ豫算ニ就テ、時ノ政府ノ計畫ニ對シテ、減債基金貳千萬圓ヲ借入レテヤリサヘスレバ、政府ノ庶幾スル所ノ仕事ニハ妨ヲ及ボサヌ。即チ本年ニ至テ已ムヲ得ズンバ、財政ノ根本カラ一ツ改メテ、増稅ノ已ムヲ得ザル所ノモノハ、國費ノ負擔均衡ヲ保ツヤウニ致シテ、一舉ニ解決スルガ宜シイ。斯ウ云フ意見ヲ述ベタノデアリマシタガ、當時諸君ノ多數ハ、御賛成ガナカツタノデアリマ

ス。サウシテ小部分ノ増稅ヲ御賛成ニナツタノデアリマス。昨年増稅ヲヤツテ置イテ、又明年モヤルナドト云フコトハ、實際已ムヲ得ヌト致シテモ、是ハ頗ル困難デアアル。然レドモ此困難ヲ排シテヤルト云フ考ガ有ルカ無イカ。又是ハ決シテ無イト云フコトデアレバ、今ノ豫算執行不能ニ陥ル虞ハ斷ジテナイト云フ事實ヲ、具體的ニ御説明下スツテ、私ノ疑ヲ氷解スルコトガ出來マシタナラ、我國民ノ上ニ於テ、甚シキ満足ト思ヒマス。而シテ明年ノ計畫ニ對スル御抱負モ、併セテ御述べスツテ國民ヲシテ安心セシムルト云フ態度ニ出デラレンコトヲ、切ニ私ハ希望シテ置クノデアリマス。

今一ツ今日ノ國家トシテ重大ナル事柄デアアル。ソレハ社會政策ニ關スル問題デアリマス。今回ノ戰爭ニ依リマシテ、國民ノ思想ノ上ニ種々ノ影響ヲ及ボシ來ツタト云フコトハ、今更私ガ申スマデモナク、將來ニ於キマシテ極メテ紛雜ヲ來シ、極メテ重大ナ關係ヲ持つ所ノモノハ、資本家ト從業者トノ此關係デアルト思ヒマス。其從業者ノ中ニ於テモ、多ク勞働者ニ關スル所ノモノガ、極メテ重大ナ事デアルト思テ居リマス。而シテ凡ソ事業其モノハ資本ト勞働ト不可分性ヲ私ハ持つテ居ルモノト思ツテ居ル。幾ラ資本ガアツタカラト云ツテ之ニ働ク者ガ無ケレバ、利子ヲ生ズルモノデナイ、資本ガ無ケレバ亦勞働者ハ餓口ニ困ル。是ハ勿論ノ事デアアル。併ナガラ利害ノ關係カラ云ヘバ、常ニ相反スルモノデアアル。資本家ハ其收益ノ多カラントヲ望ミ、從業者モ亦已レノ收入ヲ多カラシメントヲ望ムト云フコトハ、是ハ實際ノ事實デアアル。故ニ之ヲ程ヨク解決シテ、勞働者ノ今日ノ生活状態ノ上ニマデモ改善ヲ施シテ、資本家トノ間ニ於ケル協調ヲ程ヨク取ラシメルト云フコト



ノ方法ハ、是ハ國民ノ自覺ニ待ツモノガ多イトハ云ヒナガラ、爲政者ノ立場トシテ、等閑視スルコトノ出來ル問題ヂヤナイト思フ。而シテ今職工ダケノ狀況ヲ見マスルト、時局以前ニ職工ノ男女ノ數ハ、三十一萬五千三百九十六人。此時局後ニ於テ増加致シタ所ノモノガ、十四萬六千二百四十一人。ソレカラ工場ノ新設セラレタ所ノモノ、職工ノ數ハ、二十六萬三千二百四十七人デアル。即チ時局以前ノ職工ト時局後ニ於ケル職工トヲ比較シテ見マス、其増加シタ所ノモノガ四十萬九千四百八十八人、現在ノ職工ノ總數ハ七十二萬四千八百八十四人デアル。是等ニ對スル勞働者ノ未ダ安全ナル方法ハ何ニモ附イテ居ナイ。或ハ一部分々々デ組合組織ナドヲ拵ヘテ居ルモノモ、小部分ハアルカモ知レマセヌガ、大部分ハ今後ノ經濟界ノ推移ニ依ツテハ、甚シク不安定ノモノデアル。

併ナガラ是等ノ事ハ、餘程調査研究ヲ致サナケレバ、其實際ノ問題ヲ解決スルト云フコトハ困難デアル。決シテ机上ノ上デ聲ヲ大キクシタダケデ以テ、解決ノ出來ル問題デハナイ。即チ之ヲ調査研究スルト云フコトハ、今日一日ヲ忽セニスベカラザル事デアルト思テ居ル。此大部分ニ對シテ最モ應用シ得易イモノハ、所謂勞働保險、癈疾保險是等ノモノデアル。或ハ疾病保險デアル。是等ノ事ハ昨年既ニ建議書ガ出テ、當時ノ農商務大臣ハ、必ズ之ヲ實行スルコトニ努メルト云フコトヲ明ニシテ居ルノデアル。固ヨリ西洋各國ニ行ハレテ居ル所ノ勞働保險ニ付テハ、多少ノ弊害モアリマス。故ニ之ヲ丸吞ニ茲ニ移スト云フコトハ、出來得ナイガ、相當ノ調査ヲ致シテ以テ、此問題ヲ解決スルト云フコトハ、極メテ急グコトデアル。要スルニ是等ノ問題ヲ解決セント

欲スレバ、相當ノ調査ヲ要スル。調査ハ只デハ出來マスマイ。即チ調査費ヲ設クル位ノコトハ、現政府ニ於テモ爲サレサウナモノデアル。仄ニ聞ク所ニ依レバ、既ニ或省ヨリハ調査ヲ請求致シタガ、大藏大臣ハ之ヲ削除シタト云フコトヲ傳ヘテ居ルガ、果シテ是ハ事實カ。事實デナイカ。其事ヲ私ハ確メル必要ハアリマセヌガ、要スルニ此問題ヲ解決セントスル所ノ爲メニハ、或ハ組合標準ノ如キモノヲ拵ヘルト云フコトモ、一ツノ研究問題デアル。勞働保險ヲ具體的ニスルト云フコトモ、是モ一ツノ問題デアル。其他種々方法ガアルト思フ。其種々ノモノヲ研究シテ、之ニ據ラシムルヤウナ方法ヲ執ルト云フコトヲ、現内閣ニ於テ何故執ラレヌノデアルカ。又其ノ費用ハ別ニ調査費ヲ置カズトモ、斯様ニシテ解決スル積リデアルト云フ御所信ガアレバ、伺ヒタイト存ジマス。

以上御尋ヲ致シタ所ノ項目ニ對シテ、御説明ヲ望ミマスル次第デアリマス。



#### 第四、昭和二年一月第五十二帝國議會ニ於ケル大藏大臣トシテノ私ノ財政演說(速記録)

諸君。不肖昨年九月大藏大臣ノ重任ヲ拜シマシテ、茲ニ昭和二年度歳入歳出總豫算ノ御紹介ヲ致シ、且ツ政府ノ財政計畫ニ付キマシテ其大要ヲ説明致シマスルコトハ、不肖ノ光榮ト致ス所デゴザイマス。

大正十三年六月加藤内閣成立以來、政府ハ數年度ニ互リ極力行政財政ノ整理緊縮ヲ圖リ、又幾多財政上ノ禍根ヲ芟除シ、財政ノ基礎ヲ鞏固ニシ、又一方前年度ニ於テ多年ノ懸案デアツタ税制整理ノ問題ニ付、第一次税制整理ヲ行ヒマシタ爲ニ、帝國ノ財政ハ其面目ヲ一新シ得タリト信ジテ居リマス。併シナガラ我國財政經濟ノ現状ニ顧ミマスルニ、尙ホ本年度ニ於テモ前年度同様緊縮ヲ旨トシ、以テ財界ノ整理ヲ促進シ、其恢復ヲ速クナラシムル必要ガアルト認メマス。而モ他面海軍補助艦艇製造費ノ追加、北海道第二期拓殖計畫ノ樹立、第二次税制整理等ノ懸案デアリマシテ、此際其解決ヲ要スルモノガ少クアリマセヌ。故ニ昭和二年度豫算ノ編成ニ當リマシテハ、新規要求ハ前述ノ如ク懸案ノ解決、社會政策的施設並ニ産業ノ振興ニ要スル經費等、緊急已ムヲ得ザルモノ、外ハ、之ヲ認メザルコトト致シマシタ。尙ホ既定ノ經費ニ對シマシテモ、嚴密ナル審査ヲ加ヘマシタ。苟モ節約ノ餘地アルモノハ是ガ節約ヲ圖リ、且ツ夙ニ其必要ヲ認メラレマシタケレドモ、未ダ之ヲ遂

行スルコトガ出來ナカツタ國庫餘剩金ヲ以テスル國債償還ノ制度ヲ確立致スコト、致シマシタ。

右ノ方針ヲ以テ編成シタル昭和二年度總豫算ハ歳入歳出各、拾七億參千五萬餘圓デアリマシテ、歳入ニ於キマシテハ經常部拾四億五千八百拾餘萬圓、臨時部貳億七千九拾餘萬圓デアリマス。右歳入豫算ヲ前年度豫算ニ比較致シマスレバ、經常部八千四百九拾餘萬圓、臨時部五百七拾餘萬圓、計九千六拾餘萬圓ヲ増加致シマシタ。歳入豫算ノ中増減事項ノ主ナル點ニ付テ述ベマスレバ、經常部ニ在リマシテハ、租稅ニ於テ七千六拾餘萬圓ノ増加、印紙收入ニ於テ貳百參拾餘萬圓ノ減少、郵便電信及電話收入ニ於テ千四拾餘萬圓ノ増加、專賣局益金ニ於テ八百貳拾餘萬圓ノ増加デアリマス。臨時部ニ在リマシテハ國有財産整理資金繰入ノ如キ、特殊歳出ノ財源ニ供スベキ資金繰入ニ於テ千七拾餘萬圓ヲ増加致シ、公債金ニ於テ千六百萬圓ヲ減少シテ居リマス。前年度剩餘金繰入ハ壹億六千六百參拾餘萬圓デアリマシテ、之ヲ前年度豫算計上額ニ比較致シマスレバ、九百九拾餘萬圓ノ増加ヲ見マシタケレドモ、是ハ其一部ヲ割イテ國債償還ノ財源ニ充ツルノ制度ヲ立テタルニ由ルモノデアリマシテ、其所要額四千四百五拾餘萬圓ヲ差引キマスレバ、却テ前年度ニ比シマシテ參千四百五拾餘萬圓ノ減少トナル計算デアリマス。

又昭和二年度ニ於キマシテ歳出豫算ノ財源トナルベキ公債ノ發行額ハ、前年度同様一般會計特別會計ヲ通ジマシテ壹億五千萬圓ニ止メ、且ツ之ヲ一般市場ニ公募セザルコトニ致シマシタ。其内譯ヲ述ベマスレバ、一般會計ニ在リマシテハ震災前後公債六千四百萬圓、特別會計ニ在リマシテハ鐵道公債五千九百萬圓、朝鮮事業公



債千九百萬圓、臺灣事業公債五百萬圓、關東州事業公債百萬圓、樺太事業公債貳百萬圓デアリマス。又歳出ニ於キマシテハ、經常部拾壹億七千四百九拾餘萬圓、臨時部五億五千五百拾餘萬圓デアリマシテ、之ヲ前年度豫算ニ比較致シマスレバ、經常部八千七百五拾餘萬圓、臨時部參百拾餘萬圓、計九千六拾餘萬圓ノ増加デアリマス。此増加ヲ來シマシタ所以ヲ申述ベマスレバ、當然増加額七千九百四拾餘萬圓、當然減少額壹億貳千參百八拾餘萬圓、要求減額四百六拾餘萬圓、節減若クハ繰延額參千九百餘萬圓、新規増加額壹億七千八百八拾餘萬圓デアリマシテ、差引前述ノ如ク九千六拾餘萬圓ノ増加デアリマス。

次ニ昭和二年度ニ於テ施設スベキ重要事項ニ付其大略ヲ説明致シマスレバ、近年我方國債増加ノ趨勢ハ頗ル著シキモノガアリマス。昨年末現在ノ國債總額ハ五拾壹億六千貳百餘萬圓デアリマシテ、之ヲ十年前ニ比較シマスレバ、二倍餘ニ當ツテ居リマス。故ニ將來若シ國債政策上何等施設スルコトナク自然ノ趨勢ニ委スル時ハ我方國債額八年々累増シ、其結果必ズヤ國債市價ノ低落ヲ來シ、益々發行條件ヲ不利ナラシムルト共ニ金融市場ヲ壓迫シ、延イテ我方財政經濟各方面ニ及ボス影響眞ニ恐ルベキモノガアリマス。故ニ加藤内閣成立以來政府ハ努メテ起債額ノ減少ヲ圖リ、且ツ非公募政策ヲ採用シテ茲ニ三年デアリマス。其我國財政經濟ニ及ボシマシタル效果ハ多大ナルモノガアリマシタケレドモ、我方經濟界ノ現狀ニ鑑ミマスレバ、未ダ之ヲ以テ満足スルコトハ出來マセヌ。故ニ我方國債政策トシマシテハ、依然トシテ起債額ノ減少ニ努メマシテ、非公募政策ヲ繼續スルト共ニ、從來ノ國債償還方針ニ更ニ一步ヲ進メマシテ、其償還額ノ増加ヲ圖ルコトガ、現下ノ最大急務

デアルト信ジマス。而シテ國債償還額増加ノ方法ト致シマシテハ、現行制度ノ外ニ尙ホ歳計ニ餘剩ヲ生ジマシタトキハ、事情ノ許ス限り之ヲ國債ノ償還ニ充ツルノ制度ヲ併用スルコトガ、最モ妥當デアルト認メルノデアリマス。

元來歳計剩餘ノ生ズルニ任セテ之ヲ新規歳出ノ財源ニ充テマスルコトハ、歳計ノ膨脹ヲ招キマスカラ出來得ル限り之ヲ避ケナケレバナリマセヌ。仍テ昭和二年度ヨリ歳計剩餘ノ一部ヲ國債償還金ニ充當スル制度ヲ確立スルコトト致シマシタ。而シテ其割合ハ成ベク多キヲ可トスルコト勿論デアリマスルケレドモ、歳計剩餘ヲ新規歳出ノ財源ニ充テ來リマシタル我國財政多年ノ慣行ヲ、今遽ニ變更スルコト困難ナル實情ニ鑑ミマシテ、其最低割合ヲ前々年度ニ新ニ生ジマシタル純剩餘金ノ四分ノ一ト爲スコトニ致シマシタノデアリマス。其額ハ昭和二年度ニ於テ四千四百五拾餘萬圓デアリマシテ、之ニ現行制度ニ依ル償還繰入額五千四百餘萬圓ヲ加ヘマスレバ、國債償還額ハ九千八百五拾餘萬圓ニ上ル計算デアリマス。而シテ此制度ハ將來ニ互ツテ繼續スル爲ニ、之ヲ法律ニ規定スルノ必要ヲ認メマシテ、國債整理基金特別會計法中改正法律案ヲ今期議會ニ提出セントスル次第デアリマス。斯ノ如ク歳計剩餘金ノ一部ヲ國債償還ニ充當致シマスルコトハ、我方財政ノ信用ヲ増加シ、延イテ内外市場ニ於ケル我方國債ノ聲價ヲ高メマシテ、財政上ノ效果著シキモノガアルノミナラス、國債償還額ノ増加ハソレダケ民間資金ノ供給ヲ潤澤ナラシメマシテ、其結果金融ノ緩和、金利ノ低下ヲ來シ、延イテ我が財界ノ整理促進ニ資スル所極メテ大ナルモノアルベシト信ズルノデアリマス。(拍手)



海軍補助艦艇製造費ノ追加ハ年月ノ經過ニ依リマシテ、減耗セントスル艦艇威力ノ補充ヲ爲シ、以テ現有勢力ヲ維持セントスルニ過ギナイモノデアリマシテ、昭和二年度以降五箇年度ニ互リマシテ、總額貳億六千百參拾餘萬圓ヲ既定經費ニ追加スルモノデアリマス。陸軍在營年限短縮ハ民間多年ノ要望デアリマシタガ、政府ハ今回國防上支障ヲ來サシメザル範圍ニ於キマシテ、歩兵在營年限短縮スルノ計畫ヲ定メマシタ。其結果壯丁ノ營外ニ於テ經濟的ニ活動スル期間ヲ増加シマシテ、國家生産力ノ増大ニ貢獻セントスル所鮮少ナラザルベシト信ズルデアリマス。本計畫ハ初年度ニ於キマシテ經常部ニ於テ百貳拾餘萬圓ノ經費増加ヲ來シマスケレドモ、昭和十三年度ニ於テ平年度トナリマシテ、新規ノ増加額ハ大體在營年限短縮ニ依ル經費ノ減少額ト相當ルモノデアリマシテ、國庫ニ多大ノ負擔ヲ來サシメザルモノデアリマス。

北海道拓殖ニ關スル既定計畫ハ大正十五年度ヲ以テ大體終了ヲシマシタケレドモ、本道拓殖事業ハ尙ホ完成シナイモノガアルノミナラズ、更ニ大ニ施設スベキモノガアリマスカラ、是ガ第二期計畫ヲ樹ツルノ必要ガアリマス。併ナガラ是ガ實行ニ當リマシテハ、既往ノ實績ニ鑑ミ攻究ヲ要スルモノガアルト認メマシテ、昨年はガ調査委員會ヲ設ケ、慎重ニ研究ヲ遂ゲマシテ、其報告ニ基キマシテ、茲ニ昭和二年度以降二十年度間ニ互リマスル第二期計畫ヲ定メマシタ。之ニ基キマシテ大體毎年度北海道ニ於ケル收入ヨリ、拓殖費以外ノ支出ヲ差引キマシタル額ヲ標準ト致シマシテ、翌年度ノ拓殖費豫算ヲ定メルコトト致シマシタ。其昭和二年度ニ於ケル金額ハ貳千五百拾餘萬圓デアリマシテ、既定額ニ比較致シマシテ千百九拾餘萬圓ノ増加デアリマス。

貿易ノ振興産業ノ獎勵ノ緊要デアアルコトハ言フ俟タザル所デアリマシテ、政府ハ數年來特ニ意ヲ茲ニ注ギ昭和二年度ニ於キマシテモ、領事館ノ増設、商務職員ノ増員、日本商品館設置補助、重要輸出品工業組合助成等貿易振興ニ必要ナル經費、並ニ蠶絲局ノ設置、鶏卵ノ増産、石油ノ試掘、水源林ノ増植、遠洋漁業ノ助成等、産業獎勵ニ必要ナル經費ヲ計上致シマシタ。社會政策的施設ハ時勢ノ進運ニ伴ヒマシテ、益々其緊要ノ度ヲ加ヘマスルカラ政府ハ數年來是ガ實行ニ努メマシテ、昭和二年度ニ於キマシテモ、移殖民保護獎勵、不良住宅改善、公益質屋建設等ノ計畫ヲ樹テタノデアリマス。其他前年來ノ懸案ヲ解決致シマシタモノニハ、通信従業員其他比較的給與ノ菲薄ナル吏員ノ待遇改善ニ要スル經費八百餘萬圓、金鷄勳章其他勳章年金ノ増額參百拾餘萬圓、市町村義務教育費國庫負擔金ノ増加五百萬圓等ガアリマス。

次ニ税制整理ニ付テ説明ヲ致シマスレバ、曩ニ第一次税制整理トシテ國稅及地方稅ヲ通ジテ一般的整理ヲ行ヒマシタケレドモ、當時未ダ調査ノ完了ヲ告ゲナカッタ登録稅、印紙稅、砂糖消費稅ニ付テ今回整理ヲ行フコトト致シマシタ。今此第二次税制整理ノ綱要ヲ申上ゲマスレバ、先ヅ登録稅ニ付キマシテハ不動産所有權ノ移轉、質權抵當權ノ取得等ノ場合、及法人合併ノ場合ニ於ケル課稅ニ相當ノ輕減ヲ加ヘ、不動産信託ノ場合ニ於ケル課稅ノ方法ヲ改善シ、社會政策的並ニ公共的施設遂行ノ場合ニ於ケル課稅ヲ免ジ、又土地臺帳ノ登録稅ヲ廢シ、尙ホ商業登錄其他一部ノ定額稅ニ付キマシテ、相當ノ引上ヲ行フコトト致シマシタ。印紙稅ニ付キマシテハ、現行ノ比例稅及定額稅併用制度ヲ改メマシテ、階級定額稅及定額稅併用制度ト致シタノデアリマス。



又社會政策ノ遂行上免稅ヲ適當ト認メマスル證書帳簿並ニ課稅上官民相互ノ間ニ紛爭ヲ絶タナカッタ賣買仕切書等ノ證書ニ免稅ヲ致シマシタ。尙ホ相當擔稅力ガアリト認メマスル通帳及判取帳ニ對スル稅率ヲ適當ニ引上ゲマシタ。砂糖消費稅ニ付キマシテハ、庶民階級ノ需要品タル第一種糖ニ相當ノ減稅ヲ致シ、第二種糖、第三種糖ノ區分ヲ廢シマシテ、之ニ現行第二種糖ノ稅率ヲ課スルコトト致シマシタ。現行第四種糖、第五種糖及糖蜜、糖水ニ對シマシテモ相當ノ減稅ヲ行フコトト致シマシタ。之ト同時ニ砂糖ニ關スル關稅率ニ適當ノ改正ヲ加ヘマシテ、兩者相俟ツテ消費者ノ負擔ヲ輕減スルト共ニ、我國糖業ノ發達ヲ阻害スルコトナキヲ期シタノデアリマス。之ヲ要スルニ第二次稅制整理ハ其全體ヲ通ジマシテ、國民租稅負擔ノ均衡ヲ得セシメ、成ベク社會政策的效果ヲ舉ゲルト共ニ、稅務行政實行上ノ便宜ヲ圖リマシテ、出來得ル限り官民相互ノ手數ヲ省略スル方針ノ下ニ立案シタノデアリマス。(拍手)尙ホ稅制整理ニ關シマシテハ、法律案ノ議題ニ上ル機會ニ於キマシテ詳細ノ説明ヲ試ミル考デアリマス。

右ノ整理ニ依リマシテ平年度ニ於テ租稅收入ノ減少スルモノ、登錄稅法ノ改正ニ依リ貳百貳拾餘萬圓、印紙稅法ノ改正ニ依リ百四拾餘萬圓、砂糖消費稅法ノ改正ニ依リ百四拾餘萬圓、計七百八拾餘萬圓デアリマス。然ルニ砂糖ニ付キマシテハ其關稅率ノ改正ニ依リマシテ貳百四拾餘萬圓ノ增收ヲ來シマスカラ、砂糖消費稅及砂糖關稅ヲ通ジマスル時ハ、百六拾餘萬圓ノ減稅デアリマシテ、平年度ニ於ケル第二次稅制整理及砂糖關稅改正ニ依ル減收總額ハ五百參拾餘萬圓トナルノデアリマス。然ルニ施行初年度タル昭和二年度ニ於キマシテハ、砂

糖消費稅ニ付キマシテ、舊稅率ノ適用ヲ受ケルモノノ收入ヲ包含致シマスル關係上、貳百八拾餘萬圓ノ減收ニ止リマスカラ、昭和二年度減收額ハ四百五萬餘圓トナル計算デアリマス。

翻ツテ我國經濟界ノ現狀ニ付テ一言ヲ致シマスレバ、曩ニ戰後ノ反動期ニ當リマシテ、朝野共ニ斷乎タル決心ヲ以テ速ニ整理緊縮ノ方策ニ出ヅベカリシニ拘ラズ、徒ニ其機ヲ逸シマシテ、更ニ大震火災ニ遭遇シ、益々財界恢復ヲ困難ナラシメタノデアリマス。加藤内閣成立以來、政府ハ此財界ノ難關ニ處スルノ途ハ財政經濟ノ徹底的整理緊縮ノ外ナキコトヲ認メマシテ、銳意其實行ニ努力シ來リマシタル結果、財界ノ整理ハ次第ニ進捗シ財界各方面ニ於テ改善ノ跡見ルベキモノアルコトヲ示シタノデアリマス。

先ヅ日本銀行兌換券ノ發行高ヲ見マスルニ、近來著シク減少シマシテ、大正十五年下半年期ニ於ケル各月末發行高ノ平均ハ拾參億壹千八百餘萬圓デアリマシテ、前年同期ニ比較シマシテ六千六百餘萬圓、前々年同期ニ比較致シマシテ六千四百餘萬圓ヲ減少シ、戰時戰後ヲ通ジテ過度ニ膨脹シタル通貨ノ顯著ナル收縮ヲ來シタノデアリマス。又金利ニ付キマシテハ、市中金利モ漸落ノ步調ヲ辿リマシテ、一昨年四月日本銀行公定割引歩合ハ日步貳錢貳厘ヨリ貳錢ニ引下ゲラレマシタガ、爾來金融緩下ノ情勢ヲ持續致シマシタノト、財界ノ大勢順調ナルモノガアル等ニ依リマシテ、昨年十月更ニ日步壹錢八厘ニ引下ゲラレマシタ。斯ノ如キ短期金利ノ低落ニ伴ヒマシテ、公債社債ノ發行利廻モ次第ニ低下シ、其發行條件モ漸次改善セラレマシテ、有價證券ノ相場ハ堅實ナル上騰ヲ致シタノデアリマス。又日本銀行ノ調査ニ依ル卸賣物價指數ハ漸次ニ減少シマシテ、最近即チ昨年



十二月ニハ、一七八トナツテ居リマス。前年同期ニ比較シマシテ二十五點、前々年同期ニ比較シマスレバ四十六點ヲ減少シ、小賣物價指數モ亦大體同様ノ趨勢ヲ示シマシテ、戰時戰後ニ互ツテ異常ニ騰貴シマシタ所ノ物價ハ漸次常態ニ復シツ、アルノデアリマス。又我が對外爲替相場ハ日ヲ逐フテ改善セラレマシテ、對米相場ハ昨年ノ十一月初旬以降、正金建値ガ四十八弗四分ノ三ヲ維持シマシテ、之ヲ一昨年末ノ相場ニ比較致シマスレバ、五弗四分ノ一ノ恢復ヲ告ゲタノデアリマス。今之ヲ對米爲替相場ノ最低記録タル三十八弗半ニ比較致シマスレバ、實ニ十弗餘ヲ恢復シテ居リマス。右相場ノ恢復ハ、主トシテ我が國際貸借ノ改善及對外信用ノ昂上ニ歸セネバナラヌト思ヒマス。(拍手)

次ニ外國貿易ノ情勢ヲ見マスルニ、昨年中ノ輸出額ハ貳拾億四千四百餘萬圓、輸入額ハ貳拾參億七千七百餘萬圓、合計四拾四億貳千貳百餘萬圓、輸入超過額參億參千貳百餘萬圓デアリマシテ、前年同期ニ比較致シマスレバ、輸出入共ニ減退致シマシタ。即チ輸出ニ於テ貳億六千餘萬圓、輸入ニ於テ壹億九千五百餘萬圓ヲ減ジテ居ルノデアリマスガ、特ニ輸出ノ減少ガ著シカツタ爲ニ、輸入超過額ニ於テ六千五百餘萬圓ノ増加ヲ見タノデアリマス。斯ノ如ク輸出ノ振ハナカツタノハ、主トシテ爲替相場ガ迅速ナル恢復ヲ告ゲタ爲メデアリマシテ、爲替相場恢復ノ過程ニ在リマシテハ已ムヲ得ザル現象ト謂ハネバナラヌト存ジマス。

斯ノ如ク我が經濟界ハ漸次改善ノ傾向ヲ示スニ至リマシタケレドモ、各方面トモ尙ホ整理恢復ノ中道ニ在リマスノミナラス、前述ノ改善モ約十年ノ久シキニ互レル金輸出禁止ノ變態ノ下ニ於ケル成果ニ過ギヌノデアリマスカラ、我が財界ノ將來ヲ考ヘマスレバ、未ダ俄ニ吾人ノ樂觀ヲ許サバルモノガアルト存ジマス。元來金輸出ノ禁止ハ世界大戰ニ基ク非常施設デアリマシテ、出來得ル限り速ニ是ガ撤廢ヲ期セネバナラヌノデアリマス。而シテ金輸出解禁ノ實行ニ當リマシテハ、豫メ其經濟界各方面ニ及ボスベキ影響ヲ考慮致シマシテ、周到ナル注意ヲ以テ必要ナル各般ノ準備ヲ整ヘナケレバナラヌコトハ明カデアルト存ジマス。然ルニ金解禁ノ準備トシテ政府ノ最モ重キヲ置キマスル所ハ、我が財界ノ整理ヲ促進スルコトデアリマス。政府ハ夙ニ財政ノ整理緊縮ヲ行ヒ、既往三年度ニ互リ國債非公募ノ方針ヲ嚴守シ、今回更ニ國債償還制度ニ一大改革ヲ加フル等、財界ノ整理促進ニ資スベキ各般ノ方策ヲ講ジマシタガ、財界整理ノ一大障礙タル震災手形ニ對シマシテ、適切ニ善後處置ヲ行フノ必要ヲ認メルノデアリマス。

抑々震災手形ノ割引ニ關シマスル施設ハ、大正十二年九月ノ大震災ニ因リ生ジマシタル經濟界ノ非常ナル困難ヲ緩和スル爲ニ採ラレタルモノデアリマシテ、本年九月三十日マデ繼續セララルコトトナツテ居ルノデアリマス。本來此施設ハ財界非常時ニ於ケル特別ノ施設デアリマスルカラ、成ルベク速ニ之ヲ常道ニ返スベキモノデアリマスガ、其融通期間ニ付キマシテモ既ニ二回ノ延期ヲ重ネテ參ツテ居ルノデアリマス。此上漫然之ヲ延期スルコトナク、今日ニ於テ適切ナル解決案ヲ樹テルコトガ却テ財界整理ノ進捗ヲ助ケル所以デアルト信ジマシテ、是ガ實行ニ關スル法律案ヲ今期議會ニ提出セント欲スル次第デゴザイマス。(拍手)

之ヲ要スルニ我が財界ハ大體ニ於テ堅實ナル歩調ヲ以テ恢復ノ道程ヲ進ミツツアルノデアリマス。而シテ其



道程ニ横ツテ居ル障礙ノ除去若クハ緩和ニ付キマシテハ、政府ハ最善ノ手段ヲ講ジマスケレドモ、其實行ニ當リマシテハ是ガ爲メ苟クモ中間景氣ヲ發生セシムルガ如キコトナキヤウニ緩急其宜シキヲ制シ、以テ順調ナル財界ノ恢復ヲ圖ルベキデアリマス。之ト同時ニ民間ニ在リマシテモ亦政府各般ノ施設ト相俟ツテ、各自ノ事業ニ付キ或ハ其經營方法ヲ改メ、或ハ能率ノ増進ヲ圖リ生産費ノ低減ヲ期スル等、其過渡的時期ニ善處スベキ方法ヲ誤ラズ、官民一致堅忍不拔ノ精神ヲ以テ奮勵努力シ、財界進歩國運發展ノ基礎ヲ作ラナケレバナラヌト信ズルノデアリマス。終リニ臨ミマシテ、諸君ハ慎重審議、政府提出ノ豫算案ニ協賛ヲ與ヘラレンコトヲ望ミマズ次第デゴザイマス。(拍手)

### 第五、震災手形損失補償公債法同善後處理法及ビ之ニ對スル私ノ提案理由説明 (第五十二議會速記録)

#### 震災手形損失補償公債法

- 第一條 大正十二年勅令第四百二十四號及大正十四年法律第三十五號ニ依ル契約ニ基キ政府ガ日本銀行ニ對シテ支拂フベキ損失補償金ハ、五分利附國債證券ヲ以テ之ヲ交付ス
- 第二條 政府ハ前條ノ規定ニ依リ交付スル爲壹億圓ヲ限リ公債ヲ發行スル事ヲ得
- 第三條 前條ノ規定ニ依リ發行スル公債ノ交付價額ガ壹億圓ニ達セザルトキハ其ノ差額ヲ補填スル爲前條ノ制限以外ニ公債ヲ發行スル事ヲ得
- 第四條 本法ニ依リ交付スル國債證券ノ交付價格ハ、時價ヲ參酌シテ大藏大臣之ヲ定ム

#### 震災手形善後處理法

- 第一條 本法ニ於テ震災手形ト稱スルハ大正十二年勅令第四百二十四號第一項第四號ニ該當スル手形ヲ謂フ



第二條 政府ハ昭和二年九月三十日ニ於テ日本銀行ヨリ震災手形ノ割引ヲ受ケ居ル銀行（以下震災手形所持銀行ト稱ス）ニ對シ該震災手形ノ整理ヲ爲サシムル爲本法ノ定ムル所ニ依リ貸付金ヲ爲スコトヲ得

前項ノ貸付金ハ五分利附國債證券ヲ以テ之ヲ交付ス

第三條 政府ハ前條ノ規定ニ依リ交付スル爲必要ナル額ヲ限度トシテ公債ヲ發行スルコトヲ得但シ其ノ總額ハ震災手形損失補償公債法ニ依リ發行スル公債ト通ジテ貳億七百萬圓ヲ超ユルコトヲ得ズ

第四條 前條並震災手形損失補償公債法第二條及第三條ノ規定ニ依リ發行スル公債ノ交付價額ガ通ジテ貳億七百萬圓ニ達セザルトキハ其ノ差額ヲ補填スル爲前條ノ制限以外ニ公債ヲ發行スルコトヲ得

第五條 本法ニ依リ交付スル國債證券ノ交付價格ハ時價ヲ參酌シテ大藏大臣之ヲ定ム

第六條 第二條ノ貸付ハ震災手形所持銀行ガ其震災手形債務者トノ間ニ其ノ手形債務ヲ更改スル爲十年以内ノ年賦償還貸付契約ヲ締結シタル場合ニ非ザレバ之ヲ爲サズ

第七條 第二條ノ貸付ノ期限ハ十年以内トシ其ノ利率ハ年五分以上トス

前項ノ外貸付金ニ關シテハ大藏大臣之ヲ定ム

第八條 第二條ノ貸付ノ辨濟金ニ相當スル金額ハ國債整理基金特別會計法第二條ノ規定ニ依ル繰入ノ外本法ニ依リ發行シタル公債ノ償還ニ充ツル爲之ヲ一般會計ヨリ國債整理基金特別會計ニ繰入ルベシ

但シ本法ニ依リ發行シタル公債ノ前年度首ニ於ケル未償還額ノ萬分ノ百十六ニ相當スル金額ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第九條 第二條ノ貸付ニ關スル事務ハ日本銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシム

前項ノ事務ノ取扱ニ要スル經費ハ日本銀行ノ負擔トス

第十條 震災手形所持銀行ニ對シ第二條ノ貸付確定前ニ於テ日本銀行ガ昭和二年十月一日ヨリ同年十一月三十日迄ノ間ニ於ケル満期日ヲ有スル震災手形ヲ割引キタルトキハ該震災手形ニ關シテハ大正十四年法律第三十五號ヲ準用ス

前項ノ規定ニ依ル契約ニ基キ政府ガ日本銀行ニ對シテ爲スベキ損失補償ニ關シテハ第三條及第四條ノ規定並震災手形損失補償公債法ヲ準用ス

只今議題トナリマシタ震災手形損失補償公債法案及震災手形善後處理法案。此二案ニ就キマシテ一括シテ御説明申シ上ゲマス。大正十二年關東大地震直後ニ於キマシテ、金融界ハ御承知ノ如ク大梗塞ニ際會致シタノデアリマシテ、之ニ對スル非常ノ施設トシテ、大正十二年勅令第四百二十四號ヲ以テ、震災手形ニ對シ特別ノ融通ヲ爲スノ制度ヲ設ケマシテ、日本銀行ヲシテ時局ノ急ニ應ゼシメ幸ニ財界ニ動搖ヲ來ス事ヲ防止シ得タノデアリマス。而シテ其際政府ハ日本銀行ガ、是ガ爲ニ多大ノ損失ヲ蒙リ、我が中央銀行トシテノ地位ヲ危殆ナラ



シムルガ如キコトナカラシムル爲ニ、震災手形ノ割引ニ依リマシテ、日本銀行ガ受クル事アルベキ損失ニ對シ、壹億圓ヲ限り是ガ補償ヲ爲スコト、ナリマシテ、同行ト補償契約ヲ締結シタノデアリマス。併シナガラ我が財界ノ震災ニ因リテ蒙リマシタ損失ノ復舊ハ、洵ニ容易ナラヌモノガアルノデアリマシテ、已ムヲ得ズ勅令所定ノ融通期限ヲ大正十四年法律第三十五號及大正十五年第三十三號ヲ以テ、再度延長シ、期限ヲ本年九月三十日迄ト致シタノデアリマス。随ツテ又日本銀行ニ對スル補償ノ契約ヲモ變更シタノデアリマス。

然ルニ最近一般財界ノ状態ハ、其整理漸ク進捗シ來リマシタガ故ニ、益々此整理ノ趨勢ヲ助長促進セシメ、速ニ財界ヲ常道ニ復歸セシメル必要ハ愈々切實ヲ加ヘテ參ツタノデアリマス。而ジテ此財界ノ常道復歸ノ爲ニハ、政府ハ種々ノ方策ヲ講ジナケレバナリマセヌガ、右ノ非常施設タル震災手形ノ特別融通制度ヲ更ニ延期存續サセマシテハ、却ツテ財界整理ノ進捗ヲ妨ゲ、其ノ堅實ナル恢復ヲ期スル所以デナイト認メマシテ、之ヲ今後ニ於キマシテ繼續致サヌ事ニ決定シタノデアリマス。ソノ結果日本銀行ト契約致シマシタル、補償契約ニ基キマシテ、日本銀行ガ震災手形ノ割引ニ因リ受ケタル損失ヲ補償スベキ時期ニ近ク到達致スノデアリマス。而シテ日本銀行ノ損失ニ歸スル金額ハ、今日ニ於テハ之ヲ明確ニ致ス事ハ出來ナイノデアリマスガ、政府ガ日本銀行ニ對シテ支拂フベキ損失補償金ハ、國債ヲ以テ之ヲ交付スル事ガ財政上安當ノ處置デアルト考ヘマスカラ、茲ニ補償ノ最大限度タル壹億圓ヲ限りマシテ、國債ヲ發行交付スル爲メ、震災手形損失補償公債法案ヲ提出致シタノデゴザイマス。

又震災手形ニ對スル特別融通ノ制度ヲ繼續致サザルコトニ決定致シマスルニ就キマシテハ、慎重ニソノ善後方策ヲ講ズル必要ガアルノデアリマス。蓋シ震災ニ因リマシテ、一般金融界及多數震災手形ノ債務者ガ蒙リマシタ創痍ハ頗ル深刻デアリマシテ、昭和元年十二月末ノ現在、即チ震災後三年四箇月ヲ經過シマシタ時ニ於キマシテ、日本銀行ノ割引致シマシタ震災手形ノ決済セラレズニ残ツテ居ル金高ハ、約貳億七百萬圓ノ巨額ヲ算スルト云フ狀況ニアルノデアリマスカラ、機宜ニ適ヘル善後處理ノ方策ヲ講ゼズシテ、單純ニ此非常施設ノ廢止ヲ敢行致シマシテハ、財界ニ重大ナル影響ヲ與ヘル事トナルノデアリマス。斯様ノ次第デアリマスカラ、其善後處置ヲ講ズルガ爲ニ、茲ニ震災手形善後處理法案ヲ提出致シタノデアリマス。

次ニ本案ノ要領ヲ簡單ニ説明ヲ致シマスレバ、回收不能ニ陥リマシテ、日本銀行ノ損失ニ歸スル震災手形ニ就キマシテハ、前ニ説明致シマシタ震災手形損失補償公債法ニ依リマシテ、政府ガ補償スル爲メ公債ヲ發行交付スルノデアリマスガ、回收不能ト決定セズ從ツテ日本銀行ノ損失ニ歸セナカツタ震災手形ニ就キマシテハ、之ヲ日本銀行ヨリ割引ヲ受ケテキル銀行ニ對シマシテ、政府ハ震災手形ノ額ト同金額以内ニ於キマシテ、即チ震災手形損失補償公債ト通ジマシテ、貳億七百萬圓ノ範圍内ニ於テ、十箇年以内ニ於テ此公債ヲ發行交付シテ貸付金ヲ爲スノデアリマスカラ、銀行ハ震災手形ノ代リニ此公債ニ依リマシテ、日本銀行ヨリ金融上ノ便宜ヲ受ケウルノデアリマス。又震災手形ノ債務者ハ銀行トノ間ニ手形債務ヲ更改スル爲メ、十箇年以内ノ年賦償還貸付契約ヲ締結シマシテ、支拂能力ヲ恢復スル機會ヲ與ヘラル、事ト相成リマシテ、震災手形ノ整理ヲ致スコ



トガ出来ルノデアリマス。次ニ日本銀行ハ政府トノ補償契約アルガ爲ニ、初メテ割引クコトガ出来ルヨウナ異様ノ手形ノ割引ヲスル事ガ無クナリマシテ、今後ハ國債ヲ擔保トシテ手形ノ割引ヲスルト云フ常軌ニ復スルコトニナルノデアリマス。

更ニ政府ハ未決濟ノ震災手形中、本年九月三十日ニ於テ回收不能ニ陥リ、日本銀行ノ損失ニ歸スルモノアリト認メラルルモノハ、前述ノ通り補償致シマシテ、其以外ノ比較的宜シイ手形ニ就キマシテハ、慎重ニ調査シテ適當ノ條件ヲ以テ銀行ニ對シ貸付ケルノデアリマスカラ、今後十年間ニ於テ、其貸付金ノ回收ハ圓滿ニ行ハレ、國庫ニ負擔ヲ負ハシムル事ハ無イト信ジマス。又貸付ノ爲ニ國債ヲ發行交付スルノデアリマスカ、國債利子ノ負擔ハ貸付金ノ利子ノ收入ニ依リマシテ完全ニ補填スル事ヲ得ル筈デアリマス。尙ホ最後ニ一言致シマスカ、此國債發行ニ依リマシテ一時ナガラモ、震災手形損失補償公債ト通ジテ貳億七百萬圓ノ範圍内ニ於テ、公債發行額ノ増加ヲ生ズルノデアリマスケレドモ、漸次貸付金ノ辨濟ガアルニ伴レマシテ、之ヲ國債整理基金ニ繰入レマシテ、本法ニ依リ發行シタル公債ノ減額ヲ圖ル事ヲ工夫致シタ次第デアリマス。

震災手形ニ對シテ斯ノ如キ善後處理ノ方策ヲ講ジマスル事ハ、現下財政ノ狀勢ニ鑑ミ、最モ機宜ニ適ヘル處置デアリマシテ、多年懸案トナツテ居リマスル所ノ所謂財界ノ癌ト稱セラル、震災手形ノ整理問題ヲ解決スル最上ノ方法デアルト信ズルノデアリマス。以上、兩法案ニ就キ何卒慎重御審議ノ上、御協賛アランコトヲ希望致シマス。

## 第六、「震手整理」案ニ就キ衆議院本會議ニ於ケル 私ノ答辯抄録（第五十二帝國議會速記録）

昭和二年一月二十九日岩切代議士ノ質問ニ對スル答辯（本書第參篇第七章六節參照）

第一ノ質問ハ、之ヲ（震災手形ヲ）整理スルトイフガ、却ツテ整理ヲ延バスモノデハナイカト云フ事ガ主眼デアツタト存ジマス。如何ニモ我國民性ノ多分ト申シテハ、少シ害ガアルカモ知レマセスカ、一部ニ政府ニ寄り縮ルト云フ嫌ヒノアリマスコトハ、御説明ノ通りデアリマス。是レハアマリ喪ムベキ事デハナイト存ジマス。併シナガラ此處理法案ナルモノガ、政府ニ頼ツタナラバ結局免ガル、コトガ出来ルカトイヘバ、支拂能力ノアル者ハ免ガル、コトハ出来ナイノデアリマス。即チ手形ヲ發行シテキル者ハ、其割引ヲシテ貰ツテ居ル銀行ニ向ツテ、今度ハ手形デナクテ、借用證文ニスル。其借用證文ニスル場合ニ於テ、最長期ガ十年デアリマスカラシテ、其人ノ身代ノ狀況ニヨツテ三年モアリマセウ、五年モアリマセウ、要スルニ手形ガ今度ハ借用證文ニナル。年賦ノ借用證文ニナル。其借用證文ヲ日本銀行ヘ持つテ參リマシタ時ニ、今度協賛ヲ得マシタナラバ、公債ヲ貸シテヤルノデアリマス。而シテ之ニハ利息ヲ拂ハナクテハナラナイ。約束ノ年賦ノ償還ハシナクテハナラス。而シテ之ヲ取扱フ所ガ日本銀行デアリマシテ、日本銀行ハ即チ一般ノ銀行ノ中樞トシテ、常ニ日本銀行ニ



對シテハ信用ヲ維持シテ行カネバナラヌモノデアリマスカラ、是等ノ取扱ニ對シテ、日本銀行ノ信ヲ失フヤウナ仕向ケハ出來ナイ筈デアアル。如何ニ政府ニ依頼シタカラト云ツテモ、政府直接ノ貸借ヲスルモノデハナクシテ、日本銀行ヲシテ取扱ハシメル。日本銀行ヲシテ何故取扱ハシムルカトイフト、今日マデ日本銀行ガ「スタンプ」ヲ捺シテ割引ヲシテキル關係ニ於テ、サウスル事ガ實際ノ狀況ヲ知ル事ニ於テ便宜デアリマス。

斯ウイフコトヲスレバ、一時デモ、兎ニ角公債トイフモノデ、日本銀行デ金ヲ借レルヤウニナルカラ(整理ガ)延ビルヂヤナイカトイフ御懸念デアリマスガ、今申シ上ゲル通り結局拂ハナクテハナラヌ。サウシテ斯フイフ借リ方ヲシテキル事ガ、ワレヒトニ取ツテモ、決シテ名譽ノモノヂヤナイ。ソレ故ニ避ケラル、限リハ避ケルコトデアリマセウガ、何分イマ直グトシテハ困ル。相當立派ナ様子ヲシテ居リマシテモ、内面ニ於テハ苦シイ時代ハ誰レシモアルコトデアリマス。サウ云フ場合ニ於テ幾ラカ年賦ノヤウナ方法ニスレバ、體面ヲ損セズシテ借リル事ガ出來ルト云フ部分ノ人モ多少アリマス。今マデニ回收ノ出來易イモノハ回收サレテ居リマス。即チ其結果ノ残りガ貳億七百萬圓ニナツタ譯デアリマスガ、其貳億七百萬圓ノ手形ノ中デ、回收不能トイフモノニナルベキモノ、見込ガ、私ハ壹億圓ヲ出マイト思フ。サウシテソレハドウ處理スルカト云フ御尋ネモ、アツタノデアリマス。是レハ結局御尋ネノ通り、會社デ申シマスレバ積立金モ減ラス、或ハ資本ノ銷却モスル而モ之ヲ拂ハウトスレバ潰レルノ外ハナイ。所謂支拂ノ能力ガモウナイ。是ニ至ツタモノデナケレバ補償ハシナイノデアアル。此補償ヲスル場合ニ於テハ、極メテ公明正大デ、且ツ公平デナケレバナラヌノデアリマス。是

レハ現ニ今日モ内規ガアリマスケレドモ、更ニ官民ノ中ヨリシテ相當此調査機關ナルモノヲ置イテ、此決議ニ依ツテ實行致サウト思ツテ居リマス。此精神ハ質問者ト同ジ事デアリマス。而シテ(整理ガ)延ビハセヌカト云フコトニ對シテハ、イマ申シ上ゲタ通りノ事柄デアリマシテ、是ガ爲ニ延バスト云フ事ニ就イテ幾ラカ便宜ガアリマセウガ、結局延バシテ其損ニナラヌヤウニ仕遂ゲルコトガ出來ルカトイフト、損ニナル部分ハ、此貳億七百萬圓ノ中カラ選リスグツテ、損スルノハ損スル。回收ノ出來ベキモノニ對シテ、其手形ノ割引者ノ能力如何ヲ見テ、貸付ノ處置ニ出ルノデアリスカラ、是レハ損ニナルベキモノデハナイ筈デアリマス。

而シテ、一體公債政策ノ根本ヲ打壞スルヂヤナイカ。矛盾ヂヤナイカ。ト云フ御説デアリマスガ、如何ニモ斯様ナコトデ、公債ヲ増加スルト云フ事ハ、私ハ好ミマセヌ。一般ノ財政計畫ノ立方トシテハ、彼ノ大震大火ノ生ジマシタ以來、約壹億五千萬圓位ノ限度ヲ以テ公債ヲ發行シテイッテ、此震災ノ片付クマデハ、已ムヲ得ヌト云フ事ハ、是レハ常時ニ立テタ計畫デアリマス。其方針ハ狂ハシテ居リマセヌガ、サリトテ此財界ノ整理、ソノ他必要ノ事ヲ進メマスニハ、交付公債ノ必要ノ起ルコトハ、是レハ已ムヲ得ヌ。殊ニ此貳億七百萬圓ノ中ノ壹億圓ハ、既ニ諸君ノ御協賛ニナツテ居ル國ガ補償スルト云フ事ノ決マツタ部分デアアル。唯補償ノ方法ガ何モ備ツテ居リマセヌカラ、方法ヲドウシタラバ可イカト云フ事ヲ考ヘテ見ルト、今日ノ我國財界ニ於テハ、此公債ニ依ルヨリ外ニ途ハナイノデアリマス。是レハ現内閣ノ政策ノ上ニ固ヨリ生レタコトデナクシテ、其以前カラ壹億圓トイフモノハ、ドウニカシテ負擔シナケレバナラヌトイフコトハ、國家ガ既ニ之ヲ承認シテ居ル。



其残ノ壹億七百萬圓トイフモノハ、イマ申シ上ゲタ部分ニ屬スルノデアリマスガ、之ヲ何故貸シテヤルト云フ途ヲ茲ニ開カケレバナラスカト申シマス。貳億七百萬圓トイフ震災手形ガアツテ茲ニ割引サレテキル。國ガ壹億圓ノ補償ヲスル。其補償スルトイフモノハ、ドノ部分ニ補償セラレテ居ルカ世間ハ知ラナイ。ソレ故ニ「スタンプ」ノ捺シテアル手形ナルモノガ、多少ノ信ヲ持ツテ居ルノデアリマス。不完全ナガラモ、不安ナガラモ、日本銀行ガ之ニ對シテ、割引ヲシナケレバナラヌ事ニナツテ居リマスカラ、割引ヲシテ居ル。(略)残リノ壹億七百萬圓トイフモノハ、モウ此部分ニハ補償シテヤル途モ何モノイゾト、カウ明カニナリマス。此手形ナルモノハ忽チ行詰リダラウト思フ。是ニ於テ此行詰リヲ生ジナイ様ニシテヤルト云フ事ニ就イテ、國ガ損ヲシナイ方法デ、何トカ途ヲ考ヘテヤル事ガ出來ルカトイフ事ヲ考究シテ見ルト、今茲ニ整理法案ヲ出シマシタヤウニ、本人ノ方ハ借用證文ニ對スル年賦ノ借用證文ガ出來タ時ニ至ツテ、其銀行ヨリシテ公債ヲ借リタイト云フ事ニナレバ、其モノ(借用證文)ガ擔保ニ供セラレテ公債ガ貸サレルノデアリマス。而シテソノ公債ノ利子ハト云ヘバ、是レハ本人カラ拂フ利子、ソレカラ元金ノ返還ハトイヘバ、是レハ年賦ヲ拂ツテ來ルモノヲ繰込ンデ行クノデアリマス。國家ハ大體信用狀ヲ發行シテ來ルヤウナ性質ノモノニ屬スルト思ヒマス。併シナガラ此遣方ヲ誤ツテ杜撰ニナリマスレバ、御懸念ノヤウナ(整理ヲ遷延スル)事ガ生ゼヌトモ云ヘヌコトデアリマスカラ。是ハ之ニ關スル調査機關ハ別ニ作りマシテ、決シテ日本銀行バカリデモ遣ラズ、大藏省ノ考ダケデモ遣ラズ、他ニ經驗ノアル、信用スベキ人ヲ混ゼテ一ツノ機關ヲ作ツテ、是ノ評議ノ決スル所ニ從ツテ處理シヨウ。斯フ

云フ考デアルノデアリマス。

殊ニ公債ヲ減ズルト云フ事ヲ口ニシナガラ、直ク殖スヂヤナイカ。是ハ如何ニモ御非難ノ通りデアリマスガ、實際政治ノ進行ヲ圖リマス上ニ於テ、イマ申シ上ゲル様ナ事實ガ茲ニ横タハツテ居ル時ニ、之ヲ解決シヨウトスレバ、何等カノ方法ヲ講ジナケレバ、解決ノ法ガ着カナイノデアリマス。ソレデハ解決ノ方法ヲ着ケズニ濟ムカト云ヘバ、財界ハ今ヤ——諸君ハドウ御覽ニナツテ居ルカ知レマセヌガ——、私ドモノ安心ノ出來ナイ部分、所謂癌腫ナルモノガ茲ニアルト思フ。之ヲ整理スル事ヲ怠ツテ、是レガ爲メニ、他ニ波動ヲ及ボスヤウナコトヲ生ジテハナラヌト云フコトヲ、私ハ深く憂慮シテ居ルモノデアリマス。扱テ其憂慮ヲ解キ放サウトスレバ、茲ニ何等カ施設ヲシナケレバナラス。何等カノ施設ヲスルト云フ事ニ就イテハ、イマ申シ上ゲルヤウナ國家ガ成ルベク損ヲシナイヤウナ工夫ヲシナケレバナラス。ソレト同時ニ、從來ノ儘ニナツテ居ルモノニ依ツテ、金ヲ生ミ出ス途ガアルト云フガ如キコトモ、一方ニ考ヘナケレバナラス。即チ貨幣ノ整理ヲ一方ニハ遣ル。貨幣整理ノ結果トシテ、減失シタ部分ガ分ツテ來マスレバ、其所ニ生レテ來ル(餘分ノ)金ガ生ズル筈デアリマス。サウイフモノハ、私ハ差向キ此公債ノ償還ニ充テルコトガ最モ相當デアラウカト思ツテ居リマス。

又一方ニ公債ヲ募ツテ、一方ニ償還ヲスル事ヲ計畫スルトイフコトハ矛盾デアル。是レモ一應形式カラ見マシテサウイフ論モ立チマス。併シナガラ我國ノ公債ハ屢々當席ニ於テ説明致シマシタ通り、近來コ、十年間ニ二倍ニモナツテキル。本年御協賛ヲ求メテ居ルトコロノモノヲ數ヘ入レマスレバ、殖エル一方デアル。凡ソ物



ハ需要ト供給ノ關係ヲ考ヘテ見マシテ、供給スル方ノ分量ガ殖エテ來レバ、随ツテ値ガ下ル事ハ當リ前デアアル。公債ト雖モ同ジ事デアアル。ソレ故ニ、此公債ヲシテ一方ニ價ヲ保タシムル方法ヲ考ヘナケレバ、非常ニ不利ニ陥ル。是レハ先日ノ本會議ニモ申シ上ゲタ通り、今マデ募ツテアル公債ガ、極メテ短期デアアル。此公債公債ナドト云フモノハサウ短期デハナイ。無暗ニ公債ハ短期ノモノハ募レナイ。而モ三年、五年、七年ト云フ（短期限ノモノデアリマスカラ、之ヲ借換ヘル爲ニ非常ニ損ヲシテ居ル。今後ニ於テハ、長期ノ公債ガ募レル様ニ考ヘナケレバナラヌ。此現在ノ公債トイフモノノ借換ヲ、短期ニ繼續シテ借換シテ行キマスナラバ、其損失ヲ重ネルコト夥シイモノデアアル。其損失ハ即チ國家ノ負擔トナリ、利子ノ支拂モ亦國家ノ負擔トナル。ソレ故ニ、今ノ減債方法ヲ考究スルトイフト、公債ノ市價ヲ確ニ恢復スル事ガ出來ル。恢復ノ出來テ居ル事實ハ、市場ノ相場ヲ見テモ分ル。而シテ之ニ依ツテ外國ノ信用ヲ高メマシタ事ハ、是レマタ蔽フベカラザル事實デアアル。是等ハ金解禁ニ對シテ、實行致シマス時機ヲ考ヘマスルト、頗ル有利ナ事デハナイカ。ソレ故ニ、金ノ解禁ヲ致サウトシテモ、財界ノ痼腫ヲ其儘ニシテヤルト云フ事ハ無論出來マセヌ。サリトテ此金ノ解禁ヲセズシテ、爲替相場ノ異動ヲ時々見テ、サウシテ商業ノ發達ヲ期スルナドト云フコトノ出來ナイ事モ、分り切ツテ居ル。然ラバ片端カラ片付ケルモノハ片付ケテ行クトイフコトヲ進メテ行クニ就イテハ、是レハ（痼ノ切開ハ）已ムヲ得ヌ事デアアル。好ンデ何モ公債ヲ増加スルノデアリマセヌガ、萬已ムヲ得ザルコトデアルト云フコトハ御諒知下サルコトデアラウト思フ。

ソレカラ今一ツ、現大藏大臣ノ遣り方ハ、潰スベキモノマデ活カシテ行クヤウナ事ヲヤルカラ洵ニイカヌ。斯フ云フ御話デアリマシタガ、私ハ潰スベキモノヲ潰ストイフコトニ就イテ、何等異議ハアリマセヌ。併シナガラ潰スベキモノノ潰レル事ニヨツテ、他ノ潰シテ相成ラヌモノニ、大影響ヲ與ヘルト云フガ如キコトヲ見通スコトハ出來ヌト思フ。是ハ苟モ財界ノ局ニ當ツテ居リマス者ハ（冗談ダ）ト云フ者アリ）之ヲ冗談ダト云フテ、茲ニ事實ヲ語ルモノガアリマスガ、之ヲ冗談デアルト云フ程ニ、財界ニ理解ガ無クテハ實ニ恐レ入ツタモノデアアル。問題ノ起ツタモノソレ自身ガ潰レル事ガ問題デハナイ。其潰レルモノ、爲ニ、ソレニ從來關係シテ居ル者ガ、ソレガ爲ニ波動ヲ起シテ、大ナル破綻ヲ來サヤウナ事ヲ見テハナラヌト云フコトガ、私ノ心配シテ今日マデ遣ツテ來タ事デアアルノデアリマス。

### 同三月三日武藤（山治）代議士ノ質問ニ對スル答辯（本書第四篇第一章一節參照）

只今武藤山治君ヨリ御尋ニ相成リマシタコトニ就イテ御答ヲ申上ゲマス。其御答ヲ申上ゲル前ニ少シク申上ゲテ置カナケレバナラヌト存ジマスコトハ、武藤君ハ貳億七百萬圓ノ救濟ヲスル爲メニ五分利付ノ公債ヲ發行スルト、劈頭ニ仰セラレタノデアリマス。此案ハ御承知ノ如ク國家ガ既ニ壹億圓ヲ補償シテキル。其補償シテ居ル方法ヲ解決スルコトガ、第一ノ案デアリマス。其第二ノ案即チ處理法案ト名付ケルモノガ、壹億七百萬圓トナルノデアリマス。併シナガラ同ジク震災手形デアリマスカラ、兩者ヲ共通シ得ルヤウニ箇條ハ作ツテアリ



マスガ、法案其モノハ、一方ハ國家ガ既ニ約束シテ居ル所ノモノヲ履行スル方法。一方ハ新タニ残ツテ居ル震災手形ニ對スル處理ノ法案デアリマスカラ、之ヲイマ御述ニナリマシタヤウニ、救濟法案デアルト仰セラレルノハ、性質ニ於テ少シ違ヒマセウ。其違ヒヲ明ラカニシテ置キマシテ御尋ニ對スル御答ヲ致シマス。

武藤君ハ私ガ先般本會議ニ於テ日本銀行ガ割引ヲ致シテ居ルモノガ——残ツテ居ルモノガ貳億七百萬圓アル。斯ウ云ツタノデアルガ、其後自分ノ調査スル所ニ依レバ九千八百萬圓餘デアアル。僅ニ九千八百萬圓バカリ割引シテキルモノニ對シテ、貳億七百萬圓ノ五分利付公債ヲ發行スル必要ガナイノデアルカラ、寧ロ此法案ハ此際撤回シテハドウカ。是レガ御問ノ要旨デアツタト存ジマスガ、私ガ先般茲ニ申上ゲマシタノハ、震災當時ニ於テ日本銀行ガ割引スルト云フ事ニ依ツテ「スタンブ」ヲ捺シタモノガ四億餘圓アツタモノガ、段々減ツテ來テ、今日ハ貳億七百萬圓存シテ居ル。斯ウ申上ゲダノデアリマス。ソレハ即チ日本銀行ガ震災手形ニ對シテ割引ヲ要求セラレタ時ニハ、割引ニ應ジナケレバナラヌ義務ヲ持ツテ居ルモノガ、貳億七百萬圓アルト云フコトデアリマス。而シテ今日日本銀行ニ於テ現ニ割引サレテ居ルモノハ、其中ニ於ケル九千七百餘萬圓デアアルコトハ仰セノ通りデアリマス。併シナガラ此兩案ヲ提出致シマシタ時ニ私ガ説明致シマシタ如ク、今日貳億七百萬圓ノ震災手形ガ残ツテ居ルガ、此中ニ國家ガ壹億圓ハ補償スルト云フ約束ガ付イテキル。其壹億圓ト云フモノハ手形ノ持主カラ云ヘバ、何レモノガ國家ガ辨償シテ呉レルカドウカト云フコトハ分ラナイノデアアル。貳億七百萬圓ノ中ニ含まレテ居ルガ故ニ、其震災手形ナルモノハ相當ノ活用ヲ爲スノデアルガ、之ガ今年九月三十日ニ於テ、

國家ガ補償シタ部分ヲ決濟スル事ニナルト、後ニ殘ル所ノ壹億七百萬圓ナルモノハ、國家ノ補償ニ何等ノ關係ガナイト云フコトニナルガ爲ニ、茲ニ壹億圓ノ補償ノ爲ニ信用ヲ持ツテ居タモノガ、其信用ヲ失ツテシマフ爲ニ、非常ニ困難ヲ感ズルコトニ相成ルノデアリマス。今ハ貳億七百萬圓ト云フモノガアツテ、其中ノ壹億圓ハ國家ガ補償スル。其壹億圓ト云フモノガ、ドノ手形ニ屬スルカト云フコトガ分ラヌ爲ニ、信用力ヲ持ツテ居ルガ、國家ガ決濟シタ後ニ於テハ、信用力ヲ忽チ失フコトニナルガ爲ニ、其手形ヲ所有シテキル者ハ、融通上非常ノ困難ヲ來スノデアアル。

ソレ故ニ其困難ニ依ツテ財界ニ波動ヲ及ボサヌヨウニスル爲ニハ、國家ガ損失ヲシナイ方法ニ於テ相當ノ途ヲ講ジナケレバナラナイ。國家ガ損ヲセズシテ以テ經濟界ニ波動ヲ惹起ス事ノナイヨウニシヨウトスルニハ、新タニ公債ヲ貸付ケルト云フコトガ一番宜シイ。(「ヒヤヒヤ」拍手)即チ其貸付ケル公債ハ五朱ノ公債デアアルガ、其五朱ノ利息ナルモノハ、本人ヨリ手形ヲ割引イテ貰ツテキル銀行ニ對シテ、年賦ノ約束ヲシテ、其年賦ノ約束ノ出來タモノニ對シテ、日本銀行ガ其銀行ヘ貸スコト、スレバ、即チ年賦ノ契約ニ依ツテ拂フ利息其モノガ、此貸スコ債ノ利息トシテ拂ハレルノデアアルカラ、國家其モノハ其利息ノ爲ニ國民ニ負擔ヲサセナケレバナラヌト云フコトガ起ラナイ(拍手)。ソレカラ又日本銀行ガ、此手形ノ所有者ト割引ヲシテ居ル銀行トノ年賦償還ノ約束ニ基イテ、銀行ニ貸スノデアアルカラ、銀行ハ日本銀行ニ對シテ己ノ信用ヲ維持シナケレバナラナイ立場ニアルガ爲ニ、此公債ヲ貸シタモノニ對シテ、日本銀行ヘ向ツテ年賦償還ノ責任ヲ免レルヤウナ場合ハ起ラナイ。



サウシテ見レバ元金償還ニ對スル場合モ、年賦償還トシテ入ル金ガ、減債基金ノ方へ繰入レラレテ行クノデア  
ツテ、此元金ノ償還モ亦國家ガ一文モ損スル事ナクシテ行ケル。即チ利息モ元金モ國家ハ損ヲセヌ。單ニ公債  
ヲ拵ヘテ貸スト云フダケノコトデアルカラ、恰モ一ツノ信用狀ヲ與ヘルガ如キ事柄ニ依ツテ(拍手)今回ノ事柄  
ガ經濟界ニ何等ノ波動ヲ及ボサズシテ行ケルコトニナル(拍手)斯ウ説明ヲ致シタ積リデアリマス。即チ今日本  
銀行ガ此中デ九千百萬圓バカリ割引ヲシテ居ツテ、其他ノモノハ今ノ壹億圓ノ補償ガアルト云フコトガアリマ  
スル爲ニ、日本銀行デ割引シテ居ラナイデモ、矢張銀行ノ方デハ通用シテキル。何故通用シテ居ルカト云ヘバ、  
日本銀行ヘ持ツテ行ケバ是ハ割引ヲシナケレバナラヌト云フ一ツノ權利ガ附イテ居リマスカラ、ソレデ通用シ  
テ居ルノデアリマス。然ラバ此際ニ此震災手形ヲ片付ケル時ニ當ツテハ、震災手形トシテ損ヲシテ居ルモノヲ、  
全部茲ニ解決スルニアラザレバ、本問題ノ解決ニハナラナイノデアル。(「ヒヤ〜」拍手)

ソレカラ此遣方ハ政商ヲ保護スルト仰セラレル。何故ニ之ヲ政商ト云フノデアルカ。武藤山治君モ、實業界  
ニハ相當經驗ノアラレル方デアリマスガ、手形ヲ發行シテ日本銀行ニ金ヲ借り、或ハ普通銀行ニ融通ヲ乞フ者  
ニ、之ヲ捉ヘテ政商ト名ヅケルノデアリマセウカ(拍手)。ソナコトハアリマスマイ。多クノ手形ノ所有者ノ  
中ニハ或ハ政商ナル者ガアルカモ知レマセヌガ……(發言スル者多シ)即チ震災手形デアアルガ爲ニ、國家ガ  
壹億圓ノ補償ヲシテ居ル位ノ事柄デアリマスカラ、是ハ約束ニ對シテハ約束ヲ果スコトハ國家トシテ當然デア  
ル。ソノ残りノ壹億七百萬圓ノ手形ヲ持ツテ居ル者ガ、必シモ政商トハ私ハ云ヒ得ナイト存ジマス(拍手)。假

令數千歩ヲ讓ツテ、之ガ政商ノ手許ニアルモノトシテモ、ソレガ爲ニ——此措置其モノ、爲ニ財界ニ波動ヲ惹  
起ス事デアレバ、其爲ニ假ニ一ツノ銀行ガ破産ヲ來スト云フガ如キ事ニナリ、或ハ銀行ガ取付ニ遭フテ多クノ  
預金者ガ迷惑ヲ蒙ルコトニナレバ、手形ノ所有者ガ何レニ在ルト否トニ拘ラズ、財界ヲ攪亂スルト云フコトハ  
同一ノ結果デアリマス。(「ヒヤ〜」拍手)

ソレカラ次ノ御尋ハ、手形主ノ名前ヲ幾ラ追窮シテモ大藏大臣ハ明示シナイ。然ルニ震災當時ノ大藏大臣井  
上準之助君ハ、手形ノ名前ハ明示シテモ差支ガナイト言ツタ。(「其通り」ト呼ブ者アリ)。井上君ガサウ云ツタニ拘  
ラズ片岡ガソレヲ云ハナイノハ、何故カト云フノガ、質問ノ御要旨デアルト思ヒマス。當時ノ大藏大臣井上君  
ハ如何ナル所信ヲ以テ、手形所有者ノ名前ヲ公ニシテ宜シイト言ツタカ言ハナイカ。私ハ一向與リ知ラヌ事デ  
アリマス。想フニ震災當時ノ如ク經濟界ガ非常ニ攪亂ヲサレテ居ル時ニ方ツテ、何某ガ手形ヲ持ツテ困ツテ居  
ルト云フヤウナコトガゴザイマシテモ、財界ニサウ波動ハ起シマスマイ。其見地カラ或ハ井上君ハ名前ヲ言フ  
テモ宜イト云フタカモ知レマセヌ。併シナガラ武藤君モ經濟界ニハ長ク生活シテ居ラレル、此財界ガ稍々鎮定  
ヲ致シテ居ル時ニ、此手形ニ依ツテ困ツテ居ル者ハ何某デアル。其貸付ヲシテ居ル銀行ガドノ銀行デアアルナド  
ト云フ事ヲ公ニシテ、其人ノ信用ヲ維持シ、其銀行ノ信用ガドウシテ維持セラレマスカ(「ヒヤ〜」拍手)。其銀  
行ガ多クノ預金ヲ持ツテ居ル時分ニハ、サウ云フ事ニ依ツテ多クノ預金ノ取付ニ遭フデアリマセウ(拍手)、苟  
モ經濟界ニ於ケル責任ノ地位ニ在ル者ガ、サウ云フヤウナ不信ノ致方ノ出來ルモノデハアリマセヌ。是ハ言ハ



ナイノガ當然デアル。(發言スル者多シ)

併シナガラ、言ハナクテモ手形ノ數、手形ノ金額、銀行ノ數ト云フガ如キ事ヲ申上ゲテ居ルノデアリマスカラ、ソレニ依ツテ判斷ハ更ニ差支ナイ筈デアル。即チ震災手形其物ノ處分ト云フ法案デアルガ故ニ、其持主ガ誰デアルカ、彼デアルカ、ト云フガ如キ事ハ問題ノ主題デハナイノデアリマス(拍手)。第三ハ、委員長ノ報告ガ不明デアツタガ、何カ希望條件ノ事柄ガアツタヤウダ、ソレハ調査委員會ヲ設ケルト云フコトヲ言ツタノデアルカラ、其委員中ニハ貴衆兩院ノ中カラ加ヘルサウデアアルガ、是ハ會計検査院ノ検査官ヲ一名加ヘルト云フコトヲ何故シナイカ。加ヘルノガ當然デナイカト云フコトガ御質問ノ要點デアル。是ハ私ハ當然加ヘルト考ヘテ居ル。(拍手)

同日、再ビ武藤代議士ノ質問ニ對スル私ノ答辯(同第四篇第一章一節參照)

再度ノ御質疑ニ御答ヘ申上ゲマスガ、私ハ先刻モ壹億圓ガ悉ク補償ニナルトハ申上ゲテ居リマセヌ。此補償法ト處理法トハ共通スルヤウニ内部ハ出來テキル、斯ウ申上ゲタ。ソレハ何故ナラバ、(本年)九月三十日ニ於テ國家ガ補償スルト云フモノガ、定マツテシマフ。サウスルトソレガ壹億圓デアレバ、壹億圓マデハ行カナケレバナリマセヌガ、併シソレガ内輪デ濟メバ餘分ガ出來ル。餘分ノ出來タモノハ後ノ手形ノ所有者ノ方ニ融通スルヤウニ、法案其モノガ出來テキルノデアリマス。ソレ故ニ法案ノ内容ヲ御覽ニナツタナラバ、政府ガ壹億

圓ヲ補償スルコトニシテ居ルモノデナイト云フコトハ、ハツキリスルト思ヒマス。ソレハ又、委員會ニモ數回繰返シテ居ルノデアリマスカラ、委員會ノ速記録ヲ御覽ニナツタナラバ、此事モ亦明瞭スル筈デアリマス。

次ニ御懸念ニナツテ居リマスノハ、政府ガ金ヲ貸シテ戻ツテ來タ例シガナイ。是モ亦全部損失トナラウトハ云ハヌガ損失ニナルデアラウ。斯ウ云フ御懸念デアリマス。之ハ一應私ハ御尤ト存ジマス。ソレ故ニ政府直接ニ此金ヲ貸サズシテ、日本銀行ヲシテ此手形ノ割引ヲスル所ノ、日本銀行ヘ貸スノデアリマス。手形ノ所有者ノ本人ニ貸スノデハナイノデアリマス。其銀行ナルモノハ日本銀行ノ信ヲ維持シテ行クト云フコトハ、是レハ平素ノ經營上必要ノ立場ニ在ルノデアリマス。ソレ故ニ手形ノ所有者ト普通銀行トノ間ニ年賦償還ノ約束ヲシテ、其約束ノ出來タモノニ就イテ其銀行カラ借りニ來タ時分ニハ、日本銀行ガ此約束ニ基イテ貸スノデアリマス。其貸スノハ即チ銀行ヘ貸ス、其銀行ハ日本銀行ヲ欺クヨウナコトヲ爲シ、不信ヲ行ヘバ萬事休スルコトニナリマスルカラ、政府直接ニ貸スノトハ趣ガ違フノデアリマス。損失ヲ來サウト云フ虞ハ少イモノト私ハ信ジテ居リマス。

ソレカラ、武藤君ハ手形ノ所有者ノ名前ヲ示セ、銀行ノ名前ヲ示セト云フノデハナイ。斯ウ仰セラレマシタガ、手形ソノモノ振出人其モノヲ幾ラ探シタ所ガ、手形ヲ割出シテキル銀行へ行カナケレバ、其名前ト云フモノハ分ル筈ハアリマセヌ。本人デ偶々分ルモノモアリマセウガ、即チ其手形ナルモノハ日本銀行ガ割引ヲシテキルモノ、若クハ普通銀行ガ割引ヲシテキルモノニ違ヒナイ。其人ノ名前ヲ云ツテサウシテ其人ノ信用ヲ傷ツケテ、



ソレデ何ノ益スル所ガアリマスカ。私ハ此案ニ對シテ名前ガアルト否トハ餘リ直接ノ關係ハ無イト思ヒマス。ソレカラ再ビ九千七百萬圓シカ割引ヲ日本銀行ハシテ居ラスカラ、其他ノモノニ對シテノ必要ハ無イト云フ意味ニ御話ニナリマシタガ、此日本銀行ガ震災手形ニ就イテ割引ヲスルノニハ、月末トカ、月ノ半バト云フ時ニハ、屢々變ルノデアリマス。詰リ普通銀行ガ金ヲ餘リニ要セス時ニ於テハ日本銀行ヘ割引ニハ持つテ行カナイノデアル。日本銀行デ割引シタノハ貴方ノ御調ニナツタ時ニハ九千七百萬圓デアリマセウ。ソレハ此間委員會ニ於テ政府委員カラモ申シタ話デアル。併シナガラソレハ其日ニ依ツテ是ハ毎日變ルモノデアルト云フコトハ、大抵金融界ニオキデナサル武藤君ハ御承知ノ筈デアル。ソレ故ニ先刻申上ゲマス如ク、此貳億七百萬圓ト云フモノハ曩ニ震災手形ノ四億餘萬圓デアツタ所ノ中カラ殘ツテ居ル手形デアツテ、サウシテソノ中ニハ現在日本銀行デ割引ヲシテ居ル分モアリ、普通銀行デ割引ヲシテキルモノモアル。併シナガラ普通銀行ガ割引ノ出來ルノハ、日本銀行ヘ持つテ行ケバ直チニ割引ガシテ貰ヘルト云フコトニナツテ居ル爲ニ、普通銀行デ通用シテ居ル。ソレガ今度ノ政府補償ノ部分ガ片付ケララルト云フコトニナリマス、ソコニ障礙ヲ生ズルノデアリマスカラ、此方法ヲ講ジナケレバナラスト云フコトニ相成ツテ居ルノデアル。是等ノ事情ヲ御考ヘ下サツタナラバ、能ク御諒解ガ出來ル筈ト思ヒマス。

又屢々政商云々ノ御言葉ガ發セラレマシタガ、私ハ政商ナドト云フ者ヲ相手ニシタ經驗ハ頓トアリマセヌ。サウ云フ者ヲ相手ニスル必要ハアリマセヌ。ソレ故ニ私ノ眼中ニハ政商ナドト云フモノハ一向アリマセヌ。

## 第七、「震手整理」案ニ就キ貴族院本會議ニ於ケル

### 私ノ答辯抄録(第五十二帝國議會速記録)

昭和二年三月五日高橋貴族院議員ノ質問ニ對スル答辯(本書第四編第一章三節參照)

(略)元々此震災ノ手形ニ對シマシテ、變態ノ應急策ヲ講ジタト申スコトハ、金融梗塞ヲ開イテ融通ヲ滑カナラシムルトイフ趣旨カラ來テ居ルノデアリマスカラ、金融ガ本位デアリマス。今回ノ法案ニ對シマシテモ、此手形ヲ持つテ居リマスルモノハ銀行デアリマス。手形ヲ發行シタモノハ、無論他ニアルノデアリマセウ。商店モゴザイマセウ、個人モゴザイマセウ、既ニ此手形ニ對シテノ處理法案ガ行ハレマス結果トシテハ、直接ニ關係ヲ有スルモノハ、其手形ニ就イテ割引ヲシテ居ル銀行デアリマス。其結果トシテ其手形ヲ振り出シタモノニ關係ヲ及ボシテ來ルコトハ、是レハ當然ノ結果デアリマス。何故ナラバ銀行ガ手形ノ割引ヲシテ今日ハ持つテ居ル。本年九月三十日以後ハ、此手形ニ對シテハ年賦償還ノ約束ヲシテ、一ツノ借用證文ニ換ヘ、サウシテ其約束ノ出來タ所ニ基イテ、日本銀行ヨリ公債ヲ借入レルノデアリマスカラ、即チ其約束ノ最初ヲ結ブモノハ、手形ヲ振出シタモノデアリマス。又裏書ヲシタ人達デアリマス。サウイフ關係デアリマスルカラ、商店デアラウガ個人デアラウガ、之ガ爲ニ關係ヲ生ジテ來ルコトハ今申上ゲタ通りノ次第デアリマス。併シナガラ本案ノ



主眼ハ即チ矢張り元此一億圓ノ國家ガ補償シヤウト言フ法律ヲ出シタ——ソレハ金融ヲ圓滑ナラシムル目的デアリマス。矢張り今回ノコトモ金融界ニ於ケル障礙ノ起ラヌヤウニ障礙ヲ排除シヤウ。斯ウイフコトカラ生レテ來テ居ルノデアリマスガ、其結果トシテハ手形ノ振出ノ方面ニ向ツテ及ンデ行クコトハ自然デアリマス。ソレカラ衆議院ニ於テ銀行及手形振出人ノ名前ヲ絶對ニ秘密ニシタヤウデアルガ、是ハ秘密ニセズニ公ケニシタラ宜イデハナイカ。之ガ爲ニ財界ヲ攪亂スルト云フコトヲ衆議院デハ言ツタヤウダガ、多少之ガ爲ニ一二ノ銀行ガ潰レタツテ仕方ガナイデハナイカ。寧ロ公明正大ニ之ヲ明カニスルコトガ當然ヂヤナイカ。是ガ御質問ノ要旨デアツタト存ジマス。如何ニモ御尤ノ御質疑ト存ジマス。殊更ニ努メテ隠サウト云フガ如キコトヲ爲サムト欲スルモノデハアリマセヌ。殊ニ是等ノ事柄ハ現内閣ノ組織セラレテ以來ノ出來事デハナイノデアリマス。即チ大正十二年九月一日以前ノ手形ノ後戻ガコ、ニ來テ居ルノデアリマス。現内閣ノ遣ツタ事デナイノデアリマスルカラ、在リシ次第ヲ申上ゲルコトニ何ノ憚ルコトモナイ譯デアリマスガ、是レハ餘程御考慮ヲ願ハナクレバナラス。私ノ苦心ノ存スル所ハコ、ニアル。經濟界ノコトハサウ單調ニ考ヘルヤウニハ參ラヌモノデアリマシテ、極メテ機微ノ間ニ於テ非常ニ刺激ヲ與ヘルモノデアリマス。若シ此法律ガ賛成ヲ得ルコトガ出來ナイト云フガ如キコトニ相成リマスレバ、之ヲ明カニシタ爲ニ重大ナル私ハ事象ヲ惹起スト思ヒマス。是ガモウ法律トナツテ決マツテシマヒサヘスレバ、此手形ヲ持ツテ居ル銀行ト雖モ之ニ依ツテ安心ガ出來マス。其確定以前ニ、何銀行ガ某振出ノ手形ヲ幾ラ々々持ツテ居ルトイフコトヲ明カニ致シマスルコトハ、其銀行ニ對ス

ル他ノ此手形以外ノ取引ヲ致シテ居ル者ニ對スル、一種ノ刺激ヲ與ヘルノデアリマス。殊ニ預金者ニ對シテ此刺激ヲ與ヘルデアラウト存ジマス。若シ僅カナルコトニ於テ一ツノ銀行ニサウ云フ出來事ガ起ツタト致シマスルト、是レガ直チニ傳播スルモノデアリマス。今更申上グルマデモナク、今日ノ我國ノ財界ハ整理ノ出來ベキモノハ整理ニ十分努メテ居リマス。イマ其極度ヘ來テ居ル。其極度ヘ來テ居ル時ニ、一事項ノ爲ニ不安ノ念ヲ喚起スルトイフガ如キコトハ、是ハ財政ノ局ニ當ル者ノ努メテ避ケナケレバナラスコトデアルト思フノデアリマス。金融界ノ實情ニ御關係ニ相成リマシタ方々ニ於キマシテハ、其點ニ就イテハ私ハ御同情下サルコトデアルト信ジテ居リマス。

モウ一言ヲ添ヘテ申シテ置キマスガ、是レガ爲ニ一ツヤ二ツハ潰レテモ宜イヂヤナイカ。仕方ガナイヂヤナイカト仰セラレマス。ソレハ一ツ二ツデ濟ムモノデアリマセヌ。當時……今日ニ於テ此震災ヲ被リマシタ地方ニ於ケル金融狀態ナルモノハ、茲ニ一般ノ整理ヲ付ケナケレバナラストシテ、當局者トシテハ種々ノ苦心ヲ致シテ居リマス。一ツヤ二ツデ濟マヌト云フコトノ結果ハ、數億ノ預金ニ影響シマシテ、ソレガ影響シテ其銀行ダケデ濟ムモノカドウカト申シタラバ、前ニモ申上ゲマシタ如ク、此手形ヲ所有シテ居ル銀行ナルモノハ、他ノ一流其他ノ方面ニ於ケル取引ヲシテ居ラヌカト言ヘバ皆シテ居ルノデアリマス。是ガ影響ヲ蒙ルコトガ現レテ來マスルトキハ、他ノ一流ノモノト雖モ影響ナシニ參ルモノヂヤアリマセヌ。コ、ハ深く御考慮ヲ願フ點デアリマス。(以下略)



## 第八、臺灣銀行調查會官制ト第一回調査會席上ニ 於ケル私ノ挨拶

臺灣銀行調査會官制(昭和二年四月五日勅令第六十九號)

- 第一條 臺灣銀行調査會ハ大藏大臣ノ監督ニ屬シソノ諮問ニ應シテ株式会社臺灣銀行ノ基礎ヲ強固ニスル方策ヲ調査審議ス
- 第二條 臺灣銀行調査會ハ會長一人及ビ委員十四人以内ヲモツテコレヲ組織ス
- 第三條 會長ハ大藏大臣ノ奏請ニヨリ内閣ニオイテコレヲ命ス
- 第四條 委員ハ左ニ掲クルモノヲモツテコレニ充ツ
  - 一 關係各省高等官
  - 二 貴族院議員
  - 三 衆議院議員
  - 四 日本銀行總裁及副總裁
  - 五 日本銀行理事

前項第一號乃至第三號及第五號ニ掲クルモノヲモツテ充ツル委員ハ大藏大臣ノ奏請ニヨリ内閣ニ

オイテコレヲ命ス

第五條 會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アル時ハ會長ノ指名シタル委員ソノ職務ヲ代理ス

第六條 臺灣銀行調査會ニ幹事ヲ置ク、大藏大臣ノ奏請ニヨリ大藏部内高等官ノウチヨリ内閣ニオイテコレヲ命ス

レヲ命ス

幹事ハ會長ノ指揮ヲ受ケ庶務ヲ整理ス

第七條 臺灣銀行調査會ニ書記ヲ置ク、大藏部内判任官ノウチヨリ大藏大臣コレヲ命ス

書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ従事ス

附則 本令ハ公布ノ日ヨリコレヲ施行ス

昭和二年四月五日臺灣銀行調査會第一回開會席上ノ挨拶(本書第四篇第三章一節參照)

臺灣銀行ハ臺灣ノ融通機關トシテ設立サレ、商工業並ビニ公共事業ニ資金ヲ融通シ、臺灣ノ富源ヲ開發シ經濟上ノ發達ヲ計リ、ナホ進ンデ營業ノ範圍ヲ南清地方オヨビ南洋諸島ニ擴張シ、コレヲ諸島ノ商業貿易ノ機關トナリ、以テ金融ヲ調和スルコトヲ目的トシタモノデアリ、且ツマタ當時臺灣ニオイテハ、内外ノ貨幣雜然流



通シ幣制殆ど紊亂ノ極ニ達シテキタノデ、幣制整理ノ任ニ當ラシムルコトヲモ目的トシテ設立シタモノデアアル。ソノ結果、同行ハ一方ニオイテハ臺灣島内ニ流通スル銀行券發行ノ特權ヲ附與セラレ、ソノ發行高ハ昨年下半年ニオイテ平均凡ソ四千五百萬圓ニ上リ、他方海外ニ多數ノ支店ヲ有シ、對外金融機關トシテ盛ンニ活動シ、現ニ昨年下半年ニオケル同行ノ外國爲替賣買高ハ十三億一千三百萬圓ニ達シ、我國ノ外國貿易金融ニオイテハ横濱正金銀行ニ次グ重要地位ヲ占メテアル。

斯クノ如ク同行ガ重要ナル特殊銀行ノ一ツニシテ且ツマタ我國ノ海外信用トモ重大カツ密接ナル關係ヲ有シテアル點ニ鑑ミ、政府及ビ日本銀行ハ從來同行ニ多大ノ援助ヲ與ヘタガ、政府ハ今後ナホ同行ノ基礎ヲ一層堅實鞏固ナラシメナケレバナラス。故ニ諸君ニオイテモ、財界ノ現狀ヲ洞察セラレ、將來ヲ考慮シ、特別ナル方策樹立ノタメ御考究アランコトヲ希望スル。

### 附錄 回想錄・續回想錄・資料補遺 畢

### 後 記

此の書は、亡き父の晩年のありのままの姿であり、且つまた、政治家としての父が、現世に残せる事業報告書であります。父は昭和七年に、『回想錄』を公にし、ひきつづき、本書の著述に志し、昭和八年一月より着手して、七月の中頃には、殆ど一切の口述を了り、その刊行に必要な仕事の總てを、わたくし達兩三名に託し、避暑旁々、持病の鼻疾を治さんため、有馬の別邸に閉ぢ籠りました。わたくし達は、父の命をうけ、口述を基として、夫々分擔の上、仕事を進めてをります。折柄、九月の甫めに至り、おもひもかけず、主治醫より父の疾の容易ならぬ大患



であることを、聴かされたのであります。こゝにおいて、わたくし達は、父の醫療に、最善の途を盡くしまするとともに、萬一のことなき前に、此の書を刊行して、父の志を遂げしめたいと、ひたすら、その行程を急いだのであります。

しかるに、事、志と違ひ、父の疾は、ますます重態に赴きますので、わたくし達は、心痛いはむ方なく、遂に此の書の原稿の整理をも、しばらく中止することとし、日夕、父の病床に付き添うて看護につとめたのであります。幸ひに、客臘のすゑより、今年の早春にかけ、病勢は、一しきり少康を呈し、二月の初旬には、病院を出でて紀州白濱温泉に遊びました。父は機嫌のよろしき時など、附添のものに、書物のことなどを語り、その刊行を、こころから楽しみにいたしてをりました。それゆゑ、わたくし

達も、また、稿本を取り出し、父の枕頭に、繰りひろげて、疑問の箇所をも、親しく父に問ひ、記述の正確を期するをえたのであります。が、哀夫、それもまさに消えなんとする燈火の、最後の明かるさでありました。父の容態は三月に入りて、ふたゝび重態に陥り、わたくし達の力かぎりの看護も、有らゆる醫療も、その效なく、遂に、本年五月二十一日午前十一時四十分、壽七十有六を以て、昇天の日をむかへ、永久に父は、この世を後にしたのであります。

以來、わたくし達は、悲嘆の涙にかきくれつゝ、遺愛の稿本にむかうて、その校合を終へ、こゝに百日祭に臨みて、公刊のことといたしました。さうしていま、わたくしは、此の書を祭壇にさゝげ、父の靈前に額づきて、之が刊行を報告し、同時に、その



遅延と、その不手際とを陳謝いたす次第であります。  
 若し夫れ、父の生前辱知の方々が、此の書によつて政治家と  
 しての父の志の那邊に在つた乎。且つまた、父はその志を如  
 何なる程度まで暢べえました乎を、諒して戴きまするならば、  
 父の満足はもとより、わたくしの感激も、まことに、之に過ぐ  
 るものはありませぬ。

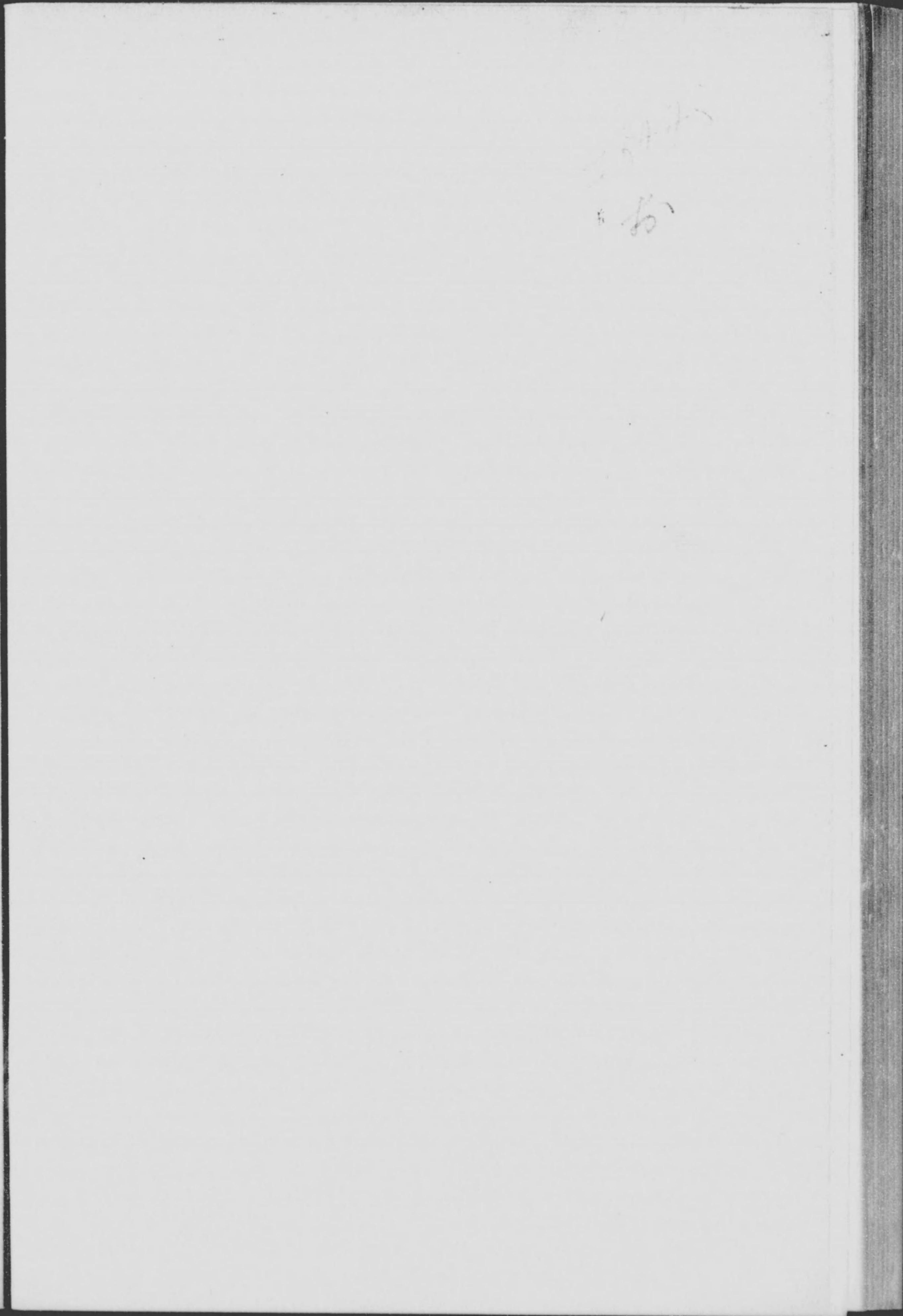
昭和九年八月二十八日 亡父の靈前に跪きて

嗣子 片岡 安

130

昭和九年八月二十八日印刷 昭和九年九月一日發行	大正昭和政 治史の一斷 面奥附	發行者 京都伏見桃山 片岡 安 印刷者 京都市下京區北小路新町西入 須磨 勘兵衛 印刷所 京都市下京區西洞院七條南入 内外出版印刷株式會社	發行所 京都市左京區北白川 西川百子居文庫 仕伏町第九番地
----------------------------	-----------------------	---	----------------------------------







649  
296



